

令和2年度(2020年度)
かけはし WAM 助成事業成果報告会

採択課題『知的・発達障害者が地域で安心して、
生き生きした人生を送る後見事業』

2021年3月6日(土)



NPO 法人成年後見センター かけはし
代表理事 小川 肇

目次

第1章	2020年度WAM助成事業の実施概要	1
1.1	NPO法人成年後見センターかけはしの設立経緯	
1.2	これまでのWAM助成事業の取り組みから見えてきた社会的課題	
1.3	WAM助成事業の実施体制	
1.4	新型コロナウイルス感染症予防に係る衛生対策	
1.5	2020年度WAM助成事業の実施概要	
第2章	2020年度WAM助成 柱1事業：人材育成の成年後見研修会事業	16
2.1	成年後見研修会事業の概要	
2.1.1	成年後見の実践例から学ぶ研修会 その1	
2.1.2	成年後見の実践例から学ぶ研修会 その2	
2.2	広報チラシ、R・Flagプロジェクト通信(2020年9月、10月)	
2.3	成年後見研修会事業の成果	
第3章	2020年度WAM助成 柱2事業：成年後見制度の普及啓発事業	34
3.1	成年後見制度の普及啓発事業の概要	
3.2	広報チラシ、R・Flagプロジェクト通信(2020年8月)	
3.3	成年後見制度の普及啓発事業の成果	
第4章	2020年度WAM助成 柱3事業：地域連携強化事業	41
4.1	地域連携強化事業の概要	
4.1.1	地域連携シンポジウム その1	
4.1.2	地域連携シンポジウム その2	
4.2	広報チラシ、R・Flagプロジェクト通信(2020年11月、2021年1月)	
4.3	域連携強化事業の成果	
第5章	2020年度WAM助成 柱4事業：トラブル・シューター研修会事業	57
5.1	トラブル・シューター研修会事業の概要	
5.2	広報チラシ、R・Flagプロジェクト通信(2020年12月)	
5.3	トラブル・シューター研修会事業の成果	

第 6 章	2020 年度WAM助成 柱 5 事業：WAM 連携支援専門家チームとの継続的強化事業	67
6.1	WAM 連携支援専門家チームとの 継続的強化事業の概要	
6.2	WAM 連携支援専門家チームとの継続的強化事業の成果	
第 7 章	2020 年度WAM助成 柱 6 事業：広報事業	70
7.1	広報事業の概要	
7.1.1	かけはしホームページ	
7.1.2	R・Flag プロジェクト通信	
7.1.3	広報チラシ	
7.2	福祉新聞、やまと社協だより	
7.3	広報事業の成果	
第 8 章	2020 年度WAM助成事業の総括	77
8.1	2020 年度 WAM 助成事業の実施概要	
8.2	2020 年度 WAM 助成事業の成果	
8.3	2020 年度WAM助成事業の取組の中から見えてきた課題	
8.4	見えてきた課題を継続的に取り組むための条件	
8.5	結語	
第 9 章	2018 年度・2019 年度・2020 年度の 3 年間継続したWAM助成事業の全体総括	82
9.1	WAM 助成事業の採択課題と総事業費	
9.2	WAM 助成事業で実施した研修会・講演会・地域連携シンポジウム	
9.3	WAM 連携支援専門家チームとの継続的強化事業	
9.4	広報事業	
9.4.1	広報誌「R・Flag プロジェクト通信」	
9.4.2	データベース	
9.5	結語	

図表の一覧表

章	図表 番号	図表の表題
1	図 1-1	NPO 法人成年後見センターかけはし 法人後見及びWAM助成事業の運営事務局体制
	表 1-1	NPO 法人成年後見センターかけはし 役員名簿
	図 1-2	研修会での新型コロナウイルス感染予防の衛生対策
	図 1-3	2020 年度 WAM 助成事業計画
	表 1-2	2020 年度 WAM 助成事業計画の講演会・研修会・地域連携シンポジウムのスケジュール
6	図 6-1	かけはし独自の「地域後見入れ子構造モデル」の考案・実践
8	図 8-1	かけはし八ヶ岳型 NPO 法人モデル
9	図 9-1	2018 年度 WAM 助成事業計画
	図 9-2	2019 年度 WAM 助成事業計画
	図 9-3	2020 年度 WAM 助成事業計画
	表 9-1	WAM 助成事業の採択課題と事業費
	表 9-2	2018 年度・2019 年度・2020 年度実施の事業名称・参加人数・冊子制作
	図 9-4	2018 年度・2019 年度・2020 年度の研修会冊子の表紙
	表 9-3	2019 年度の現地視察事業所の一覧表
図 9-5	3 年間に発行した R・Flag プロジェクト通信の累積発行枚数	

第 1 章 2020 年度W A M助成事業の実施概要

1.1 NPO法人成年後見センターかけはしの設立経緯

2011年7月より弁護士や家族及び福祉職員を構成員として「成年後見センターの設立準備委員会」を立ち上げ、隔月で「法人後見」について検討を重ねると共に、障害のある方の意思決定支援の勉強会、障がいのある方やその家族を対象とした相談会、施設職員を対象とした権利擁護及び成年後見制度の説明会等を行ってきた。

年齢を重ねた知的障害や精神障がいのある方々が、支援を受けながら地域社会の中で市民として安心して暮らしていけるよう、自己決定を尊重し、意思疎通支援を行い、判断能力の不十分な方々が被害を被ることがなく、自分らしい生活を獲得することができるよう法律行為を補う目的で、法人として成年後見人等を受任する「NPO法人成年後見センターかけはし」を2014年1月に設立した。

2019年11月に法人設立5周年行事を開催し、法人の基本理念を「あなたの人生の伴走者です」と制定した。

1.2 これまでの取り組みから見えてきた社会的課題

我が国は少子高齢化社会を迎え、2020年度の前期高齢者は1,768万人、後期高齢者は1,691万人で、総人口に占める高齢者割合(高齢化率)は27.3%である。核家族である四人家族の基本世帯は1990年以降急激に減少しており、親族がお互いに支え合う構図の維持が困難になっている。

厚生労働省統計(2018年)によれば、知的障害者は55万人、心の病患者は303万人に達しており、うつ病性障がい者の社会的コストは、年8兆円に相当する。

成年後見制度利用促進法は2016年に成立し、行政機関による市民後見人育成講座や成年後見センターの設立がなされているが、成年後見制度の利用者数は2019年度12月末現在、僅か約22万人に過ぎず、潜在的な後見ニーズ(判断能力が不十分とみられる人の総数:推計約1035万人)のわずか2%を満たしているに過ぎない。とくに行政施策の狭間である「障がい者の成年後見人(社会貢献型後見人)」への支援体制は、未だ充分整っているとは言い難い。

知的障がい者・発達障がい者は自分の悩みを支援者へ伝えるのが難しく、常に変化する障がい者の悩みに適切に対応できる人材育成が、とくに福祉機関事業所・後見支援機関に求められる。

障がい者にとって安心して過ごせる共生社会(人と人が互いを思いやり、助け合う社会)は、社会的損失・経済的損失の減災効果に大きく波及する。そのため、行政機関、福祉機関、一般市民と連携し、広域で「地域後見事業」を推進することで、家族だけでなく、地域で支え、安心して暮らせる質の高い地域共生社会の実現が喫緊の課題である。

1.3 WAM 助成事業の実施体制

当法人の組織体制を図 1-1 に示す。「公的助成金の申請業務」及び「公的助成金による新規事業の推進を所轄する事業部門」が存在しなかったため、2017 年 12 月 11 日の第 10 回理事会で、事業部門運営規程が改変され、事業部門の運営体制及び「かけはし第三者評価委員の設置」が整備された。

定例理事会（理事 8 名、弁護士 2 名）は年 2 回（4 月、11 月）開催される。WAM 助成事業申請では 2019 年 11 月に定例理事会を開催し、2020 年度 WAM 助成事業企画コンセプトの承認手続きを行った。定例理事会では、事業報告、決算報告を実施し、かけはし第三者評価委員の弁護士 2 名が出席する下で報告することで、弁護士から適切な法的指導を得ている。

運営委員会（役員会；理事 6 名）は年 10 回開催され、月次の WAM 助成事業の進捗報告・会計報告がなされ、理事相互で情報を共有化している。

WAM 委員会は運営委員会の直轄として 2018 年 4 月に設置され、2020 年度は 10 回（2021 年 1 月まで）開催された。

図 1-1 に「かけはし組織図」を、表 1-1 に「かけはし役員名簿」を示す。WAM 助成事業の実施は、図 1-1 に示す「新規プロジェクトの推進事業」部門で実施されている。実施責任者は理事大場である。毎木曜日にスタッフ会議を開催し、情報を共有して事業を推進している。事業計画に従い、理事大場は、講師の選定・研修会原稿依頼及び関係機関と交渉を、WAM 事務職員は、研修会の冊子編集、広報チラシの制作、「R・Flag プロジェクト通信」制作・郵送、WAM 助成事業予算の会計簿作成、及び（独法）WAM 事務局との連絡業務等を担当する。

1.4 新型コロナウイルス感染症予防に係る衛生対策

図 1-2 に衛生対策を示す。講演会、研修会、地域連携シンポジウムは、外風の流れが確保できる自然換気型会場を選択し、会場の消毒、参加者の検温、常時換気、最大参加人数の制限を行い、3 密を避けた状態で実施した。

1.5 2020 年度 WAM 助成事業の実施概要

図 1-3 に WAM 助成事業企画を、表 1-2 に WAM 助成事業の講演会・研修会・地域連携シンポジウムのスケジュール表を示す。

「親亡き後の障がい者が地域で安心して、生き生きとした人生を送る」ことができる地域共生社会を実現する目的で、地域で支え合いの基盤となる「知的障がい者・発達障がい者のための地域後見」を推進する事業を実施した。事業は、次の 6 つの柱立てで構成した。

① 成年後見制度の普及啓発事業

新型コロナウイルス感染衛生対策を実施した上で、2020 年 8 月 1 日（土）に講演会を行った。

②成年後見制度の利活用を促進するための成年後見研修会事業

会場参加者の人数を25名に制限する衛生対策を施した上で、2020年9月12日・13日に「専門職後見・親族後見の研修会」を、2020年10月10日、11日に「法人後見・任意後見の研修会」を実施した。

③地域連携強化のためのシンポジウム事業

2020年11月14日に神奈川県下の4団体との「地域連携シンポジウムその1」を、2021年1月16日に多数県に跨る4団体との「地域連携シンポジウムその2」を実施した。

④トラブル・シューター研修会事業

障がい者の社会的トラブルに対するセーフティネットのために、「トラブル・シューター研修会」を2020年12月12日・13日の2日間、実施した。

⑤WAM連携支援専門家チームとの継続的強化事業

コロナウイルス感染拡大に伴い、福祉施設の現地訪問は困難な状況に至り、広報誌「R・Flagプロジェクト通信」を配信することで、持続的協力体制の維持に努めた。

⑥広報事業

紙媒体の特定型広報事業とホームページ・TwitterのSNS広報事業の2事業を展開した。また、3年間のWAM助成事業で構築したデータベースは約1,000件となり、データベースに基づくダイレクトメール郵便を活用して、参加者集めを実施した。

各事業の具体的な実施内容は、図1-3中に記載された柱番号ごとに、次章以降に記載する。

図1-1 NPO法人成年後見センターかけはし 法人後見及びWAM助成事業の運営事務局体制 【理事会：2020年11月19日現在】

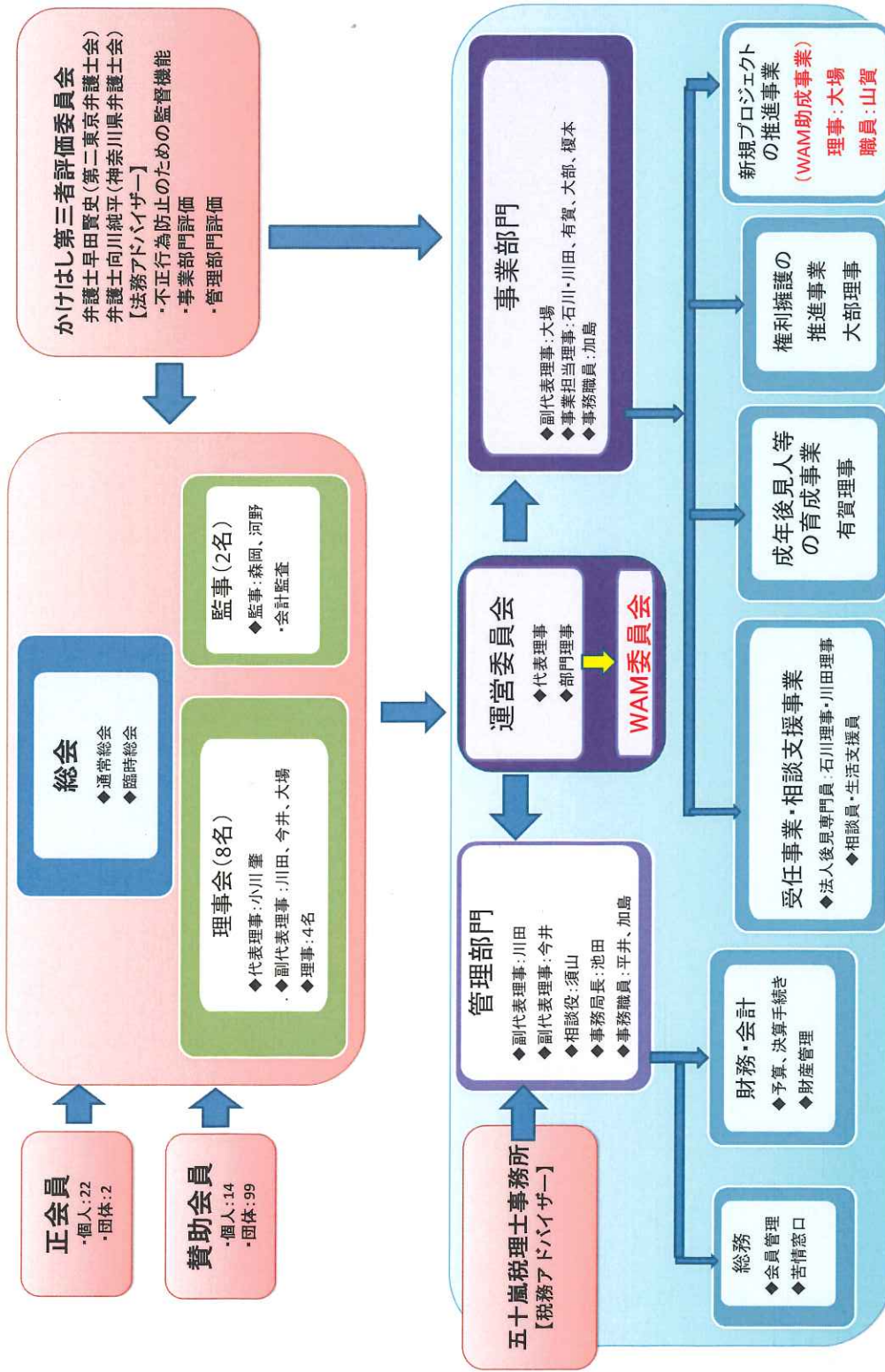
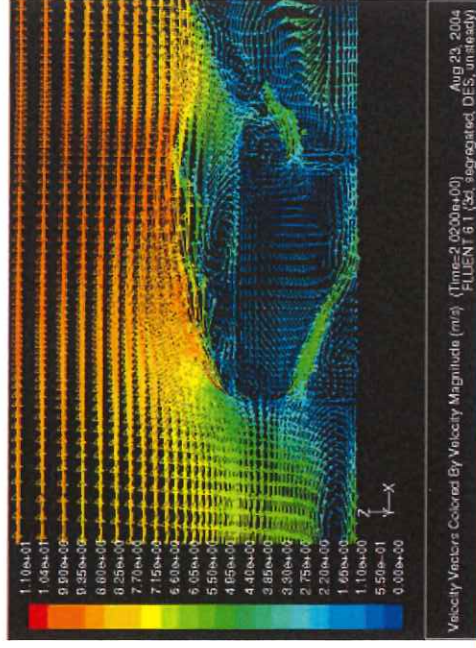


表 1-1 NPO法人成年後見センターかけはし 役員名簿

[2021年2月15日現在]

氏名	役職	担当業務	経歴
小川 肇	代表理事	NPO 法人の組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人 県央福祉会 後援会 会長 ・前神奈川県少林寺拳法連盟 理事長(正範士八段) ・横浜地方法務局 人権擁護委員
川田 雪野	副代表理事	事務管理部門担当 受任・相談事業担当	<ul style="list-style-type: none"> ・前社会福祉法人県央福祉会 パステルファームワーキングセンター 施設長 ・相模原市オンブズマンネットワーク オンブズマン ・社会福祉士
大場正昭	副代表理事	事業部門担当 WAM 助成事業担当	<ul style="list-style-type: none"> ・東京工芸大学 名誉教授 ・工学博士、一級建築士、社会福祉士、 宅地建物取引士 ・東京大学市民後見人養成講座 修了生
石川 琢馬	理事	受任・相談事業担当	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人・滋慶学園 東京福祉専門学校 講師 ・元児童相談所 児童福祉司
今井 邦治	副代表理事	事務管理部門 財務・会計担当	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)H.I.T(保険代理店) ・県央福祉会後援会 事務局 会計担当
有賀 昭博	理事	成年後見人等育成 事業担当 かけはし広報誌 企画担当	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人・専門学校 首都医校 教員 ・修士(人間福祉)
大部 さつき	理事	権利擁護推進事業担当 かけはし講座企画担当 相談担当	<ul style="list-style-type: none"> ・綾瀬市手をつなぐ育成会 代表理事 ・社会福祉士、保育士 ・東京大学市民後見人養成講座 修了生
榎本 則幸	理事	権利擁護推進事業担当	<ul style="list-style-type: none"> ・東京通信大学 人間福祉学部 教員
河野 哲郎	監事	会計監査	<ul style="list-style-type: none"> ・県央福祉会後援会 事務局 会計監査
森岡 経博	監事	会計監査	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人和の環 副理事長 ・東京大学市民後見人養成講座 修了生

図1-2 研修会での新型コロナウイルス感染予防の衛生対策



研修会会場の風の流れの確保
自然換気建物の選択



[7]

固定式飛沫拡散防止板
前面・間仕切りの設置(講演時)



移動式飛沫拡散防止板(講演時)



参加人数制限による身体的距離の
確保・ビデオ録画(会場外参加者用)

図1-2 2020年度WAM助成事業計画

採択課題：知的・発達障害者が地域で安心して、生き生きとした人生を送る後見事業

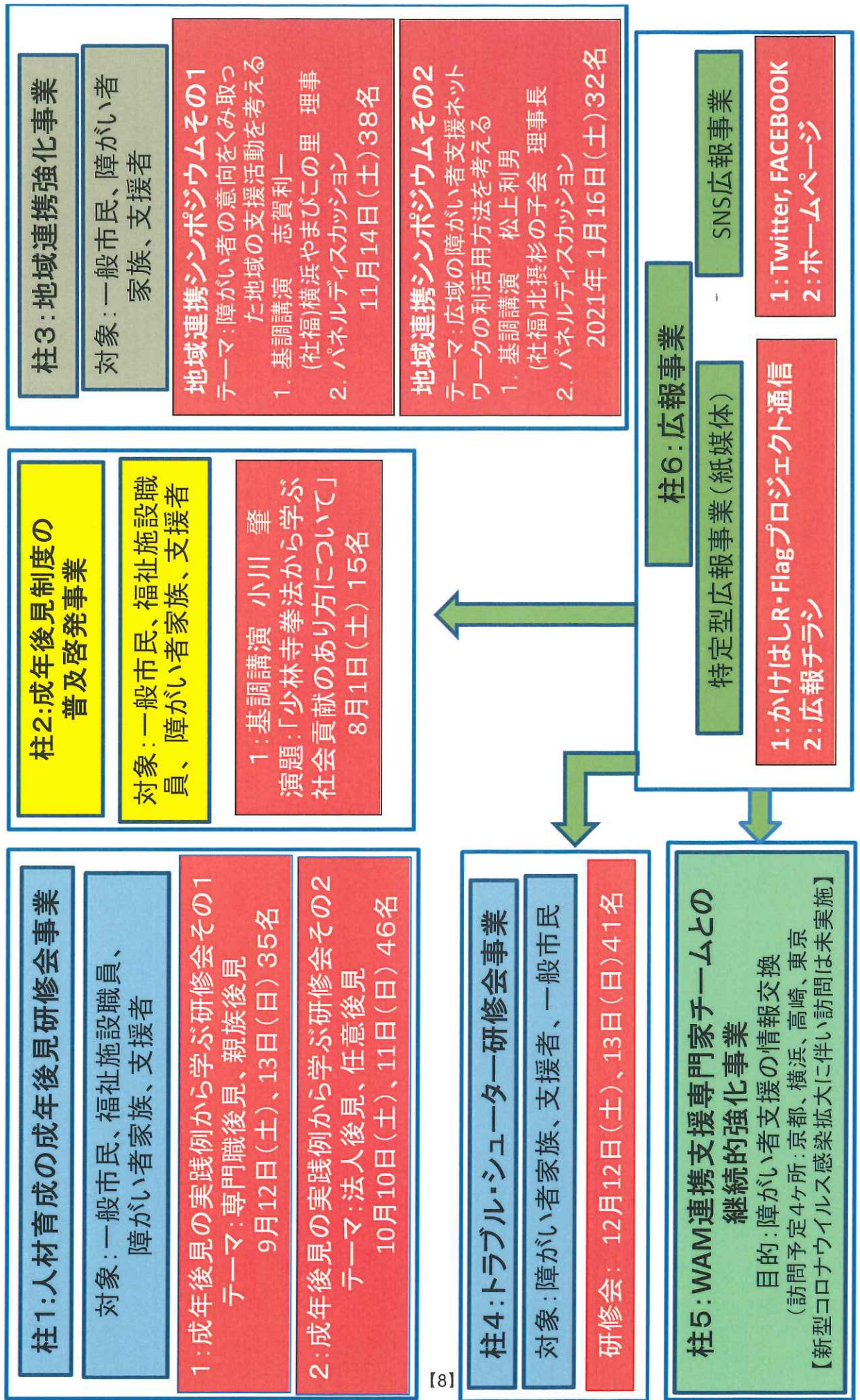


表1-2 2020年度WAM助成事業計画の講演会・研修会・シンポジウムのスケジュール

2021年3月6日作成

通し番号	形式	実施日にち	時間	区別	備考
1	1.5時間型	8月1日(土)	13:00-14:30	講演会 柱立て2	柱立て2:成年後見制度の普及啓発事業 ・講師:前神奈川県少林寺拳法連盟理事長 小川 肇(少林寺拳法、正範士八段) ・演題:少林寺拳法から学ぶ自らの生き方について ・会場:大和市(神奈川県)連携団体の会議室(定員18名)&DVD参加 ・参加費:500円
2	2日型	9月12日(土)	10:30-14:45	研修会 柱立て1	柱立て1:人材育成の成年後見研修会事業 ・演題:成年後見の実践例から学ぶ研修会その1:専門職後見、親族後見 ・会場:大和市(神奈川県)連携団体の会議室(定員15名)&DVD参加 ・参加費:一日1000円
		9月13日(日)	10:30-14:45		
3	2日型	10月10日(土)	10:30-14:45	研修会 柱立て1	柱立て1:人材育成の成年後見研修会事業 ・演題:成年後見の実践例から学ぶ研修会その2:法人後見、任意後見 ・会場:大和市(神奈川県)連携団体の会議室(定員15名)&DVD参加 ・参加費:一日1000円
		10月11日(日)	10:30-14:45		
4	3.5時間型	11月14日(土)	11:00-12:30	シンポ 柱立て3	柱立て3:地域連携強化事業:地域連携シンポジウムその1 ・演題:障がい者の意向をくみ取った地域の支援活動を考える ・講師:神奈川県内の社会福祉法人、認定NPO法人 ・会場:大和市(神奈川県)連携団体の会議室(定員15名)&DVD参加 ・参加費:500円
			13:30-15:30		
5	2日型	12月12日(土)	10:30-14:45	研修会 柱立て4	柱立て4:トータル・シューター研修会事業 ・演題:トータル・シューター研修会 ・会場:大和市(神奈川県)連携団体の会議室(定員25名)&DVD参加 ・参加費:一日1000円
		12月13日(日)	10:30-14:45		
6	3.5時間型	2021年1月16日(土)	13:00-14:30 14:45-16:45	シンポ 柱立て3	柱立て3:地域連携強化事業:地域連携シンポジウムその2 ・演題:広域の障がい者支援ネットワークの活用方法を考える ・講師:広域地域の社会福祉法人&認定NPO法人 ・会場:大和市(神奈川県)連携団体の会議室(定員25名)&DVD参加 ・参加費:500円

通し番号1:講演会(柱立て2:成年後見制度の普及啓発事業)

日程	時間割	科目	講師	備考
8月1日(土)	12:50-13:00	代表理事挨拶	小川 肇	・会場:大和市(神奈川県)提携団体の会議室 (定員18名)&DVD参加(会場外参加) ・参加費:500円
	【基礎】 13:00-14:31	少林寺拳法から学ぶ自らの生き方について 【講演会】	前神奈川県少林寺拳法 連盟理事長 小川 肇 (正範士八段)	

通し番号2:成年後見の実践例から学ぶ研修会その1(柱立て1:人材育成の成年後見研修会事業)

日程	時間割	科目	講師	備考
第一日目 9月12日(土)	10:20-12:30	代表理事挨拶	小川 肇	・会場:大和市(神奈川県)連携団体の会議室 (定員15名)&DVD参加(会場外参加) ・参加費:一日 1000円
	【制度】 10:30-12:00	専門職後見人による障がい者の成年後見の実践報告	法律事務所インテグリティ 所長 弁護士 菊地哲也 神奈川県弁護士会副会長	
	【特性】 13:15-14:45	(仮称)援助関係をつくりにくい人への支援について ～ひきこもりの支援方法のコツとは何か!～	山梨英和学院大学 大学院教授 小林真理子	
	10:20-12:30	代表理事挨拶	小川 肇	
第二日目 9月13日(日)	【基礎】 10:30-12:00	高齢社会の長期的な経済的課題と対策について ～親80歳代・子ども50歳代の経済的課題と対策について～	税理士 濱野真一	
	【制度】 13:15-14:45	親族後見の実践報告 自閉症の息子の成年後見人になって感じたこと ～申立て・面接・後見事務報告の体談～	・後見人 :大場正昭 ・被後見人:大場氏の次男(自閉症)	

通し番号3：成年後見の実践例から学ぶ研修会その2（柱立て1：人材育成の成年後見研修会事業）

日程	時間割	科目	講師	備考
第一日目 10月10日 (土)	10：20-12：30	代表理事挨拶	小川 肇	・会場：大和市（神奈川県）連携団体の会議室 ・定員15名）&DVD参加（会場外参加） ・参加費：一日1000円
	【制度】 10：30-12：00	(仮称) 法人後見の現状と課題について	認定NPO法人東葛市民後見の会 理事長 秋村直道	
第二日目 10月11日 (日)	【特定】 13:15-14:45	(仮称)発達障がい者の自立支援の実践報告	特定非営利活動法人PDDサポートセンター グリーンフォレスト 地域生活支援部 部長 浮員明典	
	10：20-12：30	代表理事挨拶	小川 肇	
	【制度】 10：30-12：00	対談形式：遺言公正証書と任意後見制度の利用の仕方	弁護士 早田憲史 弁護士 向川純平	
	【特性】 13:15-14:45	知的障害者の行動特性を理解する	国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 総務企画局 研究部長 日詰正文	

通し番号4:地域連携シンポジウムその1(案)(柱立て3:地域連携強化事業)

日程	時間割	科目	講師	備考
11月14日(土)	10:20-12:30	代表理事挨拶 基調講演	小川 肇	<ul style="list-style-type: none"> ・会場:大和市(神奈川県)連携団体の会議室(定員18名)&DVD参加(会場外参加) ・参加費:500円
	【基礎】 11:00-12:30	知的障害者・発達障害者支援の8050問題 ～親80歳代、子ども50歳代について～	<p>社会福祉法人 横浜やまびこの里(横浜市都筑区) 理事 志賀利一(相談支援事業部長)</p>	
		<p>1. パネリスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人 県央福祉会 理事長 佐瀬睦夫(大和市) ・社会福祉法人 あおぞら共生会 副理事長 明石洋子(川崎市) ・認定NPO法人地域福祉を考える会 副理事長 勝田俊一(伊勢原市) ・社会福祉法人 十愛療育会 横浜医療福祉センター 港南生活支援部長 武居 光(横浜市) <p>2. パネルディスカッションの司会進行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人 横浜やまびこの里(横浜市都筑区) 理事 志賀利一(相談支援事業部長) 		
	13:30-15:30	地域連携シンポジウムその1 (同一県内:神奈川県) 【パネルディスカッション】 テーマ:障がい者の意向をくみ取った地域の支援活動を考える		

通し番号5.トラブルシューター研修会(柱立て4:トラブルシューター研修会事業)

日程	時間割	科目	講師	備考
12月12日(土)	10:20-12:30	代表理事挨拶	小川 肇	・会場:大和市(神奈川県)運動団体の会議室 (定員25名)&DVD参加(会場が参加) ・参加費:一日1000円
	【制度】 10:30-12:00	なぜ、県央福祉会が成年後見支援センターを設立したか！	県央福祉会 理事長 松瀬隆夫	
第二日目 12月13日(日)	【制度】 13:15-14:45	トラブルシューターの実態報告その1 ～知的障がい者・発達障がい者の社会的トラブル報告及び支援方法について～	日本自閉症副会長 弁護士 辻川圭乃	
	10:20-12:30	代表理事挨拶	小川 肇	
	【基礎】 10:30-12:00	逆転の発想:コロナ禍の働き土産一不安について考える	湘南心理カウンセリング研究所 所長 角山富雄	
	【制度】 13:15-14:45	トラブルシューターの実態報告その2 ～知的障害者・発達障害者の社会的トラブルと法的対策について～	坂本千花法律事務所 社会福祉士・弁護士 坂本千花	

通し番号6: 地域連携シンポジウムその2(案)(柱立て3: 地域連携強化事業)

日程	時間割	社目	講師	備考
2021年 1月16日(土)	10:20-12:30	代表理事挨拶	小川 肇	
	【基礎】 13:00-14:30	基礎講演 社会福祉法人の広域連携の意義と課題 自閉スペクトラム症のある人の地域での暮らしを支える ～北摂杉の子会～	社会福祉法人 北摂杉の子会 理事長 松上利男	
	14:45-16:45 パネルディス カッション	地域連携シンポジウムその2 【パネルディスカッション】 テーマ: 広域の障がい者支援ネットワークの利活用方 法 を考える	1. パネリスト ・社会福祉法人 県央福祉会 理事長 佐瀬睦夫(神奈川県大和市) ・認定NPO法人 東葛市民後援の会 理事長 松村直道(千葉県我孫子市) ・社会福祉法人 横浜やまびこの里 理事 志賀利一(神奈川県横浜市区) ・社会福祉法人 嬉泉 理事長 石井 啓(急な用語で欠席) (東京都世田谷区) 『めばえ学園』の紹介: 園長 樋口美津子先生 2. パネルディスカッションの司会進行 ・社会福祉法人 横浜やまびこの里 理事 志賀利一 【急な用語で欠席: 国立高度知的障害者総合施設「のぞみの園」 事業企画局研究部 部長 日詰正文】	・会場: 大和市(神奈川県)連携団体の会議室 (定員18名) & DVD参加(会場外参加) ・参加費: 500円

第2章 2020年度WAM助成 柱立て1事業

人材育成の成年後見研修会事業

2.1 人材育成の成年後見研修会事業の概要



法人後見の研修会事業は2020年9月、10月の2回、2日間型で実施した。以下に講師の講演概要、参加者アンケート評価、及び参加者コメントを示す。

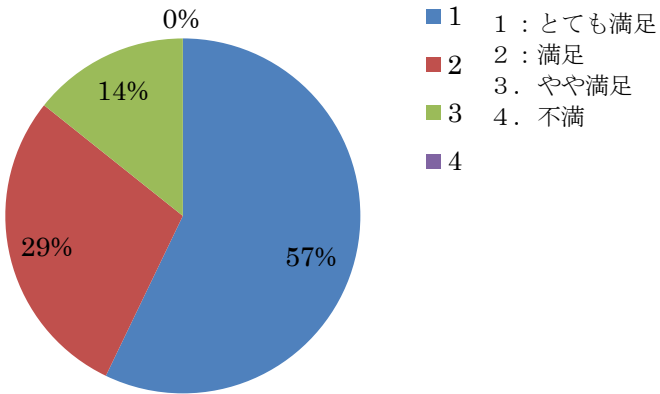
2.1.1 成年後見の実践例から学ぶ研修会その1

テーマ：専門職後見、親族後見

日時	2020年9月12日（土）10：30-14：45	
会場	県央福祉会 法人会議室（相鉄線 大和駅から徒歩3分）	
一日目 講演概要	<p>1. 参加者数：24人 （障がいのある子の親御さん、福祉施設職員等）</p> <p>2. 法律事務所インテグリティ 弁護士 菊地哲也氏の講演 演題：『専門職後見人としての障がい者支援の実践報告』 これまでの後見活動の中で気付いたことや問題点を報告された。「地域力」の話では、社会の障壁を無くしていくことが、障がいをもつ方の適切な選択肢を増やすことに繋がる、そしてそれには地域自体に力が必要だ、ということ指摘された。そこに暮らす被後見人さんと共に、菊地氏がこの問題といつも向き合っていることが判った。「私は管理的になっていないか？」「うざい人になっていないか？」といつも自分に問いかけ、被後見人さんと常に対等なパートナーでありたい、と述べられた。</p> <p>3. 山梨英和大学大学院教授 小林真理子氏の講演 演題：『援助関係をつくりにくい人への支援について』 ～ひきこもりの支援方法のコツとは何か！～ 「ひきこもり」本人へのアプローチを、多彩なパワーポイントで細かく明瞭に報告された。質疑応答を含めた総論で、「今、コロナ禍でゼミが全てリモートですが、いわゆる「ひきこもり」の学生達が実に生き生きと参加している。今日の講義はいわゆる『10年前のひきこもり論』つまりその当時の社会概念。ここからは『新たなひきこもり論』が出てくるのでは？コロナ禍で急変化している社会の中で、そもそもひきこもりって問題なの？と言われる時代になってくるのでは？」と述べられた。</p>	
		
	弁護士 菊地哲也氏	教授 小林真理子氏

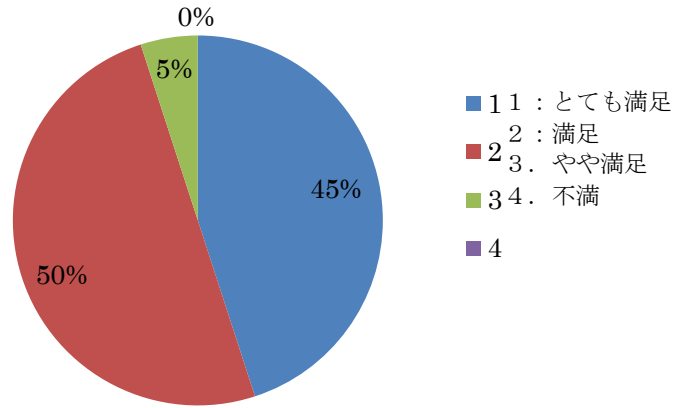
<p>一日目 参加者ア ンケート 評価</p>	<p style="text-align: center;">9月12日研修会</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>■ 1</td> <td>1 : とても満足</td> </tr> <tr> <td>■ 2</td> <td>2 : 満足</td> </tr> <tr> <td>■ 3</td> <td>3. やや満足</td> </tr> <tr> <td>■ 4</td> <td>4. 不満</td> </tr> </table>	■ 1	1 : とても満足	■ 2	2 : 満足	■ 3	3. やや満足	■ 4	4. 不満
■ 1	1 : とても満足								
■ 2	2 : 満足								
■ 3	3. やや満足								
■ 4	4. 不満								
<p>参加者 コメント</p>	<p>【弁護士 菊地哲也氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見の全体像について理解が深まりました。質疑の方々の内容がそれぞれリアルで、それに対するやりとりが有意義と感じました ・後見の依頼も、相談の仕方、専門職との関係性も、千差万別だ。親が子の支援や援助の方法を考えるために何が必要か、いくつかポイントが見えた ・成年後見制度に関しては、身上監護と事実行為の矛盾により、専門職が適切な後見が出来ないのだと気付きました ・条約、制度から具体的な事例と「事例の中の解決」などわかり易く聞かせていただきました ・後見制度自体を勉強中ですが、大変ためになります。まだまだ分からぬことが多いですが。 <p>【教授 小林真理子氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引きこもりは家族の影響が強く、解決していくには家族力が何より重要であり、それは保護者の資質に関わることだと思います。学校における親になるための教育も必要だと考えました ・考え方の整理と具体的な手段への検討に役に立った ・午後の講義は成年後見の話ではなかった。しかし、関心のあるテーマだった 								

日時	2020年9月13日(日) 10:30-14:45
会場	県央福祉会 法人会議室(相鉄線 大和駅から徒歩3分)
二日目 講演概要	<p>1. 参加者数：18人 (障がいのある子の親御さん、福祉施設職員等)</p> <p>2. 濱野真一税理士事務所 税理士 濱野真一氏の講演 演題：『高齢社会の長期的な経済的課題と対策について』 ～親80歳代・子ども50歳代の経済的課題と対策について～ 人は皆、悩みを抱えて生きている。。その悩みの一つは「お金」という人も多い。そんなお金の話を、実にわかりやすくと講義された。お金があれば安心という訳ではなく、残す仕組み、管理する仕組み、確実にその行き場を与える遺言書の大切さを指摘された。</p> <p>3. 当法人副代表理事 大場正昭氏の講演 演題：親族後見の実践報告『自閉症の息子の成年後見人になって感じたこと』 ～申立て・面接・後見事務報告の体験談～ 次男の親族後見人になって5年半となるこれまでの実践活動を、充実した資料に基づいて報告された。親であると同時に、裁判所から個の生活と財産を守る為に任命された後見人でもある重要性を指摘された。</p>
	
税理士 濱野真一氏	当法人副代表理事 大場正昭氏

<p>二日目 参加者ア ンケート 評価</p>	<p style="text-align: center;">9月13日研修会</p>  <p>■ 1 1 : とても満足 ■ 2 2 : 満足 ■ 3 3. やや満足 ■ 4 4. 不満</p>
<p>参加者 コメント</p>	<p>【税理士 濱野真一氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1000万円以上の資産があると管理が大変になることがわかった。信託についても知ることができた。 ・ 午前中は財テク・税金が論点になっており、成年後見人についてあまり言及されていなかった。だが、成年後見を進めるにあたり無視できない事であるので、意義があった <p>【当法人副代表理事 大場正昭氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 親族後見の実践報告では、とても詳しい資料と共に分かり易くご説明頂きました。もっと多くの後見を必要としているご家族に聞いていただけたらと思います ・ 具体的な申立ての流れ、家庭裁判所の審判の内容等がわかり良かった ・ 頂いた資料が具体的でとても良かった。持ち帰ってよく読んでみます ・ 親族後見の実践報告。ここまで情報を開示して頂き、実際にとても良くわかった。

二日間の
参加者ア
ンケート
総合評価

研修会の総合評価（2日間積算）



“障がい者の後見”

成年後見の実践例から学ぶ 研修会

その1

2020年 9月12日(土)・9月13日(日)

10:30～14:45 (両日とも)*10:00 開場*

・会場：県央福社会 法人会議室

所在地：神奈川県大和市中央2-3-19 ウエストビルディング4階

アクセス：小田急江ノ島線・相鉄線「大和駅」下車、徒歩3分

・定員：最大15名

・参加費：1日 1,000円 (両日とも)



9
月
12
日
(土)

【制度】 10:30-12:00 『専門職後見人としての障がい者支援の実践報告』

講師：菊地 哲也 (法律事務所インテグリティ 共同代表 弁護士)

【特性】 13:15-14:45 『援助関係をつくりにくい人への支援について』

～ひきこもりの支援方法のコツとは何か！～

講師：小林 真理子 (山梨英和大学 大学院 教授)

9
月
13
日
(日)

【基礎】 10:30-12:00 『高齢社会の長期的な経済的課題と対策について』

～親80歳代・子ども50歳代の経済的課題と対策について～

講師：濱野 真一 (濱野真一税理士事務所 所長 税理士)

【制度】 13:15-14:45 親族後見の実践報告

『自閉症の息子の成年後見人になって感じたこと』

～申立て・面接・後見事務報告の体験談～

講師：大場 正昭 (NPO法人成年後見センターかけはし 副代表理事)

主催：NPO法人成年後見センターかけはし

【お申込み・お問い合わせ】 かけはし WAM助成事業事務局：山賀・大場 (090-2484-5426)

新型コロナウイルス感染拡大防止対策について詳しくはホームページをご覧ください↓↓↓
神奈川県大和市柳橋2-1-26 ウイングシバタ 102 <http://www.kakehashi-tomoni.org/>

E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp TEL:046-244-5551/FAX:046-244-5534

☆お電話・FAX・メール whichever の方法でお申し込みください。お問い合わせもお気軽にどうぞ

成年後見の実践例 から学ぶ研修会 その1



「私のみらいのけしき」
(県央福祉会ふるーる) 荒井 九美さん

令和2年9月12日(土)・13日(日)
10:30~14:45

県央福祉会
法人会議室

主催 NPO法人成年後見センター かけはし



R・Flagプロジェクト通信



NPO 法人 成年後見センター

NPO法人成年後見センターかけはし 神奈川県大和市柳橋2-1-26ウイングシバタ102
HP : <http://www.kakehashi-tomoni.org/> E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp
TEL : 046-244-5551 FAX : 046-244-5534



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業



県央福祉会利用者さんの
素敵な絵を表紙にし
た冊子体のテキスト

本会は、NPO法人成年後見センターかけはしの「令和2年度WAM助成講演会・研修会事業」の第二弾となる二日間型の研修会となります。当日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の為、会場の消毒、参加者の検温、常時換気、最大参加人数の制限を行い、3密を避けた状態で実施しました。

9月12日(土)・13日(日)の2日間にわたり、県央福祉会法人会議室を会場に「成年後見の実践例から学ぶ研修会その1」を開催しました。

第4回 かけはしWAM助成事業

専門職のお話・充実の2日間

研修会1日目

12日午前の部は、昨年もお呼びした菊地哲也氏（法律事務所インテグリティイ弁護士 写真④⑤）。

これまでの後見活動の中で気付いたことや問題点を、丁寧にお話ししてくださいました。「地域力」のお話では、社会の障壁を無くしていくことが、障がいをもつ方の適切な選択肢を増やすことに繋がる、そしてそれには地域自体に力が要る、ということ。そこに暮らす被後見人さんと共に、菊地氏がこの問題についても向き合っていることがわかりました。



菊地 哲也 氏

菊地氏の魅力は、真摯に、謙虚に、温かく人と向き合うところだと感じます。「私は管理的になっていないか?」「うざい人になっていないか?」「いつも自分に問いかけ、被後見人さんと常に対等なパートナーでありたい」という菊地氏。今後の活動のお話もまたお聞きしたいです。

午後の部は、かけはし研修会といえばこの方! 小林真理子氏(山梨英和大学大学院教授写真⑥⑦)。

今回のテーマは「ひきこもり」。本人へのアプローチを、多彩なパワーポイントで細かく明瞭に示してくださいました。小林氏のお話はいつもの何かワクワクするような瞬間が訪れます。質疑応答を含めた総論で、「今、コロナ禍でゼミが全てリモートですが、い



小林 真理子 氏



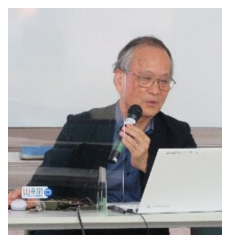
濱野 真一 氏

わゆる「ひきこもり」の学生達が実に生き生きと参加してくるんです。あ、この子こんな事考えてたんだ!と驚かされる。今日の講義はいわゆる「10年前のひきこもり論」つまりその当時の社会概念「こもり論」が出てくるのでは? コロナ禍で急変化している社会の中で、そもそもひきこもりって問題なの?と言われる時代になってくるのでは?」と、キラキラ輝く笑顔でお話してくださいました。

研修会2日目

13日午前の部は、こちら3年連続でお招きしている人気講師濱野真一氏(濱野真一税理士事務所 写真⑧⑨)。

「はた目には分からないけれど、人は皆、悩みを抱えて生きています」と冒頭で述べた濱野氏。その悩みの一つは「お金」という人も多いでしょう。そんなお金のお話を、実にわかりやすくテキパ



大場 正昭 氏



キと講義してください、聞いていこううちに我が家の家計を見直したくなってきました。しかし、お金があれば安心という訳ではなく、残す仕組み、管理する仕組み、確実にその行き場を与える遺言書のお話は、とても興味深いものでした。

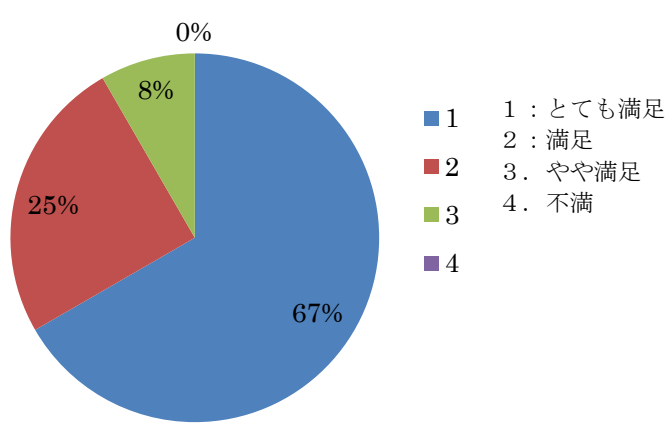
午後の部の講師は、大場正昭氏(当法人副代表理事 写真⑩⑪)。次男の親族後見人になって5年半となる大場氏の、これまでの実践のお話でした。しかし「実践のお話」と一言では表せないほどの、実に充実した資料と、その講演内容の濃さに驚きました。親であると同時に、裁判所から個の生活と財産を守る為に任命された後見人でもある大場氏の、深い愛情とプロ意識に参加者皆が感動しました。



今回の研修会は10月10日(土)・11日(日)同会場にて開催されます。

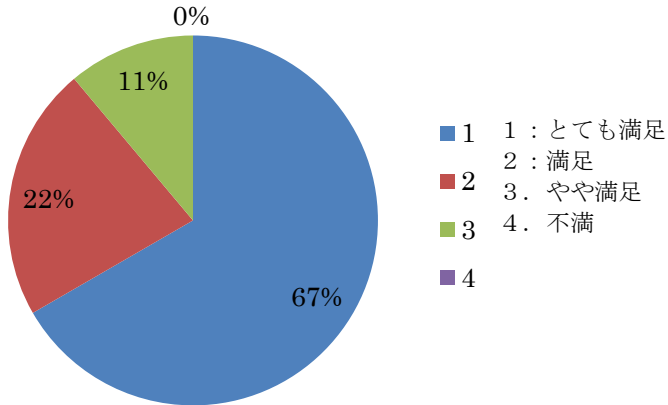
2.1.2 成年後見の実践例から学ぶ研修会その2

テーマ：法人後見、任意後見

日時	2020年10月10日(土) 10:30-14:45
会場	県央福祉会 法人会議室(相鉄線 大和駅から徒歩3分)
講演概要	<p>1. 参加者数：22人 (障がいのある子の親御さん、福祉施設職員等)</p> <p>2. 認定NPO法人東葛市民後見人の会 理事長 松村直道氏の講演 演題：『法人後見の現状と課題について』 『認定NPO法人東葛市民後見人の会の組織図』はまさに企業のような統率された組織であった。何故ここまで徹底しているのか？それは「何か問題が起こった時に信頼関係が一気に崩れるから、きちっとやる必要がある」と。 “その人の意向に合った生き方を支援する社会貢献型事業、実践について、「我々の活動は法律行為。個人の思いだけじゃない。そしてボランティアじゃない。プロ意識とプライドをもって活動を進めています」と力強く述べられた。</p> <p>3. NPO法人PDDサポートセンターグリーンフォレスト地域生活支援部 部長、浮貝明典氏の講演 演題：『発達障がい者の自立支援の実践報告』 知的の遅れがなく知的レベルも高い発達障がい者を対象とした、サポートホーム事業実践例を報告された。「体験の場なくして意思決定支援はできない」と述べる。重要視しているのは「できる・できない」ではなく「やっているかやっていないか」と指摘された。グループホームで、なるべく普通の地域での暮らしをさせて、自分の苦手気付く。そこからやりようを見つけることによって自分を知り「自律」する。「自律」とは、人を頼る力、人と一緒にやっていく力だと述べられた。</p>
	
認定NPO法人 理事長、松村直道氏	地域生活支援部部長、浮貝明典氏

<p>一日目 参加者ア ンケート 評価</p>	<h2 style="text-align: center;">10月10日研修会</h2>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>■ 1</td> <td>1 : とても満足</td> </tr> <tr> <td>■ 2</td> <td>2 : 満足</td> </tr> <tr> <td>■ 3</td> <td>3 : やや満足</td> </tr> <tr> <td>■ 4</td> <td>4 : 不満</td> </tr> </table>	■ 1	1 : とても満足	■ 2	2 : 満足	■ 3	3 : やや満足	■ 4	4 : 不満
■ 1	1 : とても満足								
■ 2	2 : 満足								
■ 3	3 : やや満足								
■ 4	4 : 不満								
<p>参加者 コメント</p>	<p>【認定NPO法人 理事長、松村直道氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状と課題の中での運営等大変勉強になりました ・ 法人後見の課題が見えてきた率直なお話を拝聴することができました。 ・ 制度推進の動きと現場の葛藤が感じられ、成年後見制度を利用しながら、本人のADL (Activities of Daily Living : 日常生活動作) を向上させていく努力が法人後見にはあると認識しました。 ・ 講師の先生の話がとても良かった ・ 様々な制度や現状を知る一端を知ることができました。ありがとうございます ・ 9月に続いて2回目でしたが、「法人市民後見」のあり様、法人後見との違い、大変勉強になりました。目からウロコ。 ・ 法人後見の組織や受任等について、不足している知識を取得できた。特に参考資料が役に立ちます <p>【地域生活支援部部長、浮貝明典氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実践を踏まえた具体的な話しが良かった ・ 非常に具体的で、「できることではなく」⇒「やっていることを。他者・自己評価することは、自分を知る、そして助けを求められるようになる」という流れが分かり易かった ・ 「発達障害者の自立支援」とは“できるできない”ではない、と。疑問に思っていたことが氷解した重いです 								

日時	2020年10月11日(日) 10:30-14:45	
二日目 講演概要	<p>1. 参加者数：12人 (障がいのある子の親御さん、福祉施設職員等)</p> <p>2. 対談講演 駿河台通り法律事務所 弁護士 早田賢史氏 横浜法律事務所 弁護士 向川純平氏 演題：『遺言公正証書と任意後見制度の利用の仕方』 対談形式で遺言公正証書と任意後見制度の利用の仕方について、とても興味深い話をされた。まず、最後の意思表示とされる「遺言」について、確実に作るなら、トラブルが起きにくい公正証書が良い、と述べられた。「任意後見制度」については、その発動までの細かい手続きの順番を丁寧に説明された。</p> <p>3. 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園事業企画局研究部部長 日詰正文氏の講演 演題：『知的障がい者の行動特性を理解する』 正しいことを言ったら人は動くのか？それは違うんです「誰に教わりたいか、なんです。と目から鱗の話をされた。支援の中で行き詰まりがあっても、自分はダメだと思わなくていい。他の人ならいいかもしれないんです、と。「自分の話を分かってくれる人がいる」が分かる支援の、実践の話をされた。また、人の生活が大事、という事を伝えるのが福祉。その為には「練習」が不可欠、と指摘された。本人が苦手な事に直面した時に起こる問題行動は「この次どうしたらいいか、」が分からないだけ。だから練習が必要。避難訓練と同じですよ、と述べられた。</p>	
		
弁護士 早田賢史氏 と 弁護士 向川純平氏	事業企画局研究部部長 日詰正文氏	

<p>二日目 参加者ア ンケート 評価</p>	<p style="text-align: center;">10月11日研修会</p>  <table border="1" data-bbox="1069 510 1305 689"> <tr> <td>■ 1</td> <td>1 : とても満足</td> </tr> <tr> <td>■ 2</td> <td>2 : 満足</td> </tr> <tr> <td>■ 3</td> <td>3. やや満足</td> </tr> <tr> <td>■ 4</td> <td>4. 不満</td> </tr> </table>	■ 1	1 : とても満足	■ 2	2 : 満足	■ 3	3. やや満足	■ 4	4. 不満
■ 1	1 : とても満足								
■ 2	2 : 満足								
■ 3	3. やや満足								
■ 4	4. 不満								
<p>参加者 コメント</p>	<p>【弁護士 早田賢史氏、弁護士 早田賢史氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺言に関して、事前の案内通り「公正証書」に関して、もう少し厚く話を聞きたかった。質疑応答の時間をもっと取ってほしかった ・具体的事例にふみこんだ内容、まだまだ不明の点多し。その都度、復習してみようと思う。そのきっかけとなった ・成年後見の基礎から学べたことが良かった ・法定後見については聞く機会があるが、任意後見・遺言には聞く機会が少ない ・地域に成年後見制度についてサポートできる必要があると思った ・質問時間があり、ご丁寧にお答え頂き大変勉強になりました ・任意後見制度については、よく知らなかったのですが、詳しく話が聴けてとても参考になりました ・任意後見について判りやすかった。自分も考えておく必要があると思った ・自分が自分の人生の経路について、どのようなものを選び、希望するのかを、自分で責任を持って調べ、考えておく必要性を感じた(様々なバリエーションをもって、ある可能性も考えて) <p>【事業企画局研究部部長 日詰正文氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日詰氏の講演 大変説得力がありました ・実践的にどの人に、どうか係わるかを、体験を通して学ぶことができた ・実践に基づくお話しがとても判りやすかったです ・身近な問題に対するトラブルの予防法について具体的なお話が聞けました ・大変わかりやすく、具体例も多く、参考になりました。ありがとうございます ・現場経験が豊富な先生のお話で、自分が目指すべき支援法を感じました 								

・現場経験が豊富な先生のお話に、自分が目指すべき支援法を感じました

二日間の 参加者ア ンケート 総合評価	<p style="text-align: center;">研修会総合評価（2日間積算）</p> <table border="1"><thead><tr><th>評価</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>1 : とても満足</td><td>67%</td></tr><tr><td>2 : 満足</td><td>23%</td></tr><tr><td>3 : やや満足</td><td>10%</td></tr><tr><td>4 : 不満</td><td>0%</td></tr></tbody></table>	評価	割合	1 : とても満足	67%	2 : 満足	23%	3 : やや満足	10%	4 : 不満	0%
評価	割合										
1 : とても満足	67%										
2 : 満足	23%										
3 : やや満足	10%										
4 : 不満	0%										
参加者 コメント	・神奈川の各市にも、こういう良い事業が広がってくれるといいなと思いま した										

“障がい者の後見”

成年後見の実践例から学ぶ 研修会

その2

2020年10月10日(土)・10月11日(日)

10:30~14:45(両日とも)*10:00開場*

・会場：県央福祉会 法人会議室

所在地：神奈川県大和市中心2-3-19 ウェストビルディング4階
アクセス：小田急江ノ島線・相鉄線「大和駅」下車、徒歩3分

・定員：最大15名

・参加費：1日1,000円(両日とも)



10月10日(土)

【制度】10:30-12:00 『法人後見の現状と課題について』

講師：松村 直道 (認定NPO法人東葛市民後見人の会 理事長)

【特性】13:15-14:45 『発達障がい者の自立支援の実践報告』

講師：浮貝 明典 (NPO法人PDDサポートセンターグリーンフォレスト地域生活支援部部长)

10月11日(日)

【制度】10:30-12:00 『遺言公正証書と任意後見制度の利用の仕方』

～対談形式～

向川 純平 × 早田 賢史

(横浜法律事務所 弁護士)

(駿河台通り法律事務所 弁護士)

【特性】13:15-14:45 『知的障がい者の行動特性を理解する』

講師：日詰 正文 (のぞみの園 事業企画局研究部 部長)

主催：NPO法人成年後見センターかけはし

【お申込み・お問い合わせ】かけはし WAM 助成事業事務局：山賀・大場 (090-2484-5426)

新型コロナウイルス感染拡大防止対策について詳しくはホームページをご覧ください↓↓↓

神奈川県大和市柳橋2-1-26 ウイングシバタ 102

<http://www.kakehashi-tomoni.org/>

E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp

TEL:046-244-5551/FAX:046-244-5534

☆お電話・FAX・メールいずれかの方法でお申し込みください。お問い合わせもお気軽にどうぞ

成年後見の実践例 から学ぶ研修会 その2



「紅葉、イチョウ」「ハロウィン」「栗、柿」
(県央福祉会 未来わかまつ) 細川 一義さん

令和2年10月10日(土)・11日(日)
10:30~14:45

県央福祉会
法人会議室

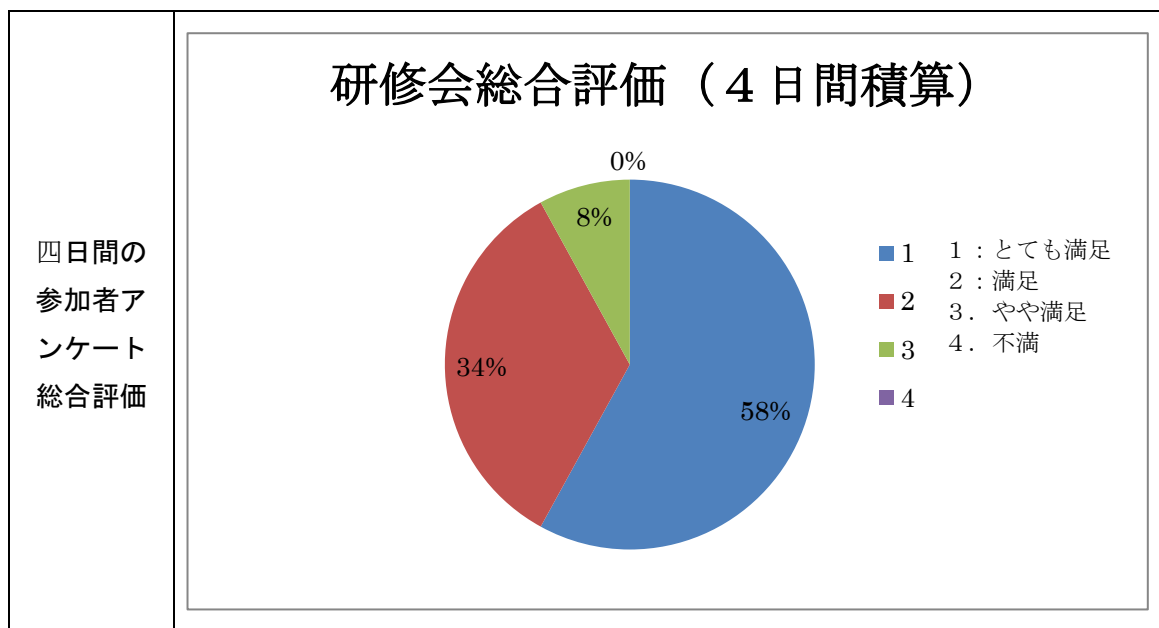
主催 NPO法人成年後見センター かけはし



2.3 成年後見研修会事業の成果

成年後見研修会事業は2020年9月12日、13日、10月10日、11日の4日間実施した。参加者は会場外参加者を含めて78名が参加した。図2-1に4日間の参加者アンケート結果を積算して作成した研修会総合評価を示す。

図2-1 4日間の参加者アンケート評価



参加者評価の割合は

とても満足 58%

満足 34%

やや満足 8%

不満 0%


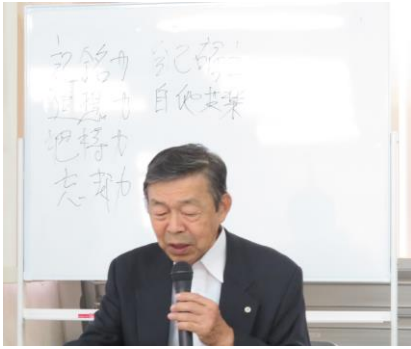
である。「とても満足」「満足」の割合は92%なので、研修会シラバスは適切であると判断できる。

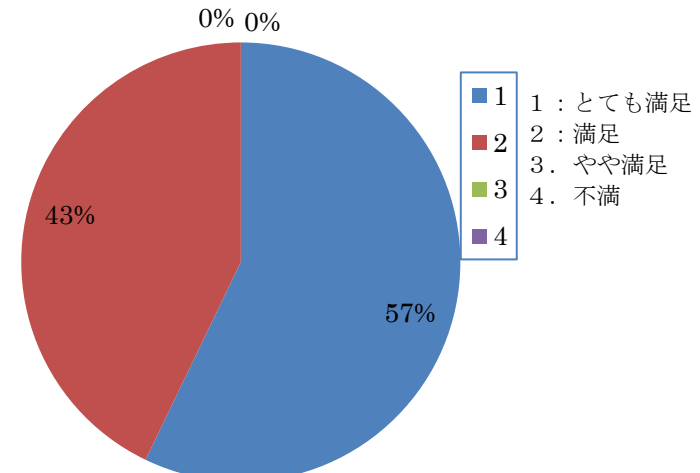
第3章 2020年度WAM助成 柱立て2事業

成年後見制度の普及啓発事業

3.1 成年後見制度の普及啓発事業の概要

成年後見制度の普及啓発事業の講演会は2020年8月に実施した。以下に講師の講演概要、参加者アンケート評価、及び参加者コメントを示す。

日時	2020年8月1日(土) 13:00-14:30	
会場	県央福祉会 法人会議室(相鉄線 大和駅から徒歩3分)	
講演概要	<p>1. 参加者数：15人 (障がいのある子の親御さん、福祉施設職員等)</p> <p>2. 前神奈川県少林寺拳法 連盟理事長 小川 肇氏(正範士八段)</p> <p>「私は本当に不器用な人間なんです」「だから、人より努力することを、人に負けないパワーをつけることを目指して生きてきました」自身の歴史を裏付ける力強いそんな言葉を、実に穏やかに話された。</p> <p>「時間は前にしか進みません。後ろには絶対戻りません。この不可逆的な法則を人間はなかなか受け入れられない」と述べる。しくじると八方塞がりになり、なんとかして時間を戻そう、どうしたら戻るのかなんて考えしまいます。しかし悲しいかな時間を戻す術がない。</p> <p>じゃあどうする? 「今、今、今を生きろ」「忘れろ、逃げるな、楽しめ」「何かにもいつも努力しろ」少林寺拳法の教えであるこの「身心一如」を説明された。</p> <p>自身の病気・苦悩・失敗、これらを「人生のファンデーション」と呼ぶ。だからこそ克服した時の喜び、幸せがある、と。そして吉田兼好の言葉にあるように「善人のふりをして生きる。生き通せば、それは善人と同じなのだ。」を、日々胸に置き、最大限善人のふりをして生きると誓っている、という。「今日も一日善人дейような!」と自分に語りかけ、唯一の今日を始めるのだと締めくくられた。</p>	
		
講演会の会場	小川 肇氏	

<p>参加者アンケート評価</p>	<h3 style="text-align: center;">8月1日講演会</h3>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: 0;"> <tr> <td style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 2px;">■</td> <td>1</td> <td>1 : とても満足</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #c0392b; color: white; padding: 2px;">■</td> <td>2</td> <td>2 : 満足</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #27ae60; color: white; padding: 2px;">■</td> <td>3</td> <td>3 . やや満足</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #6b4594; color: white; padding: 2px;">■</td> <td>4</td> <td>4 . 不満</td> </tr> </table>	■	1	1 : とても満足	■	2	2 : 満足	■	3	3 . やや満足	■	4	4 . 不満
■	1	1 : とても満足											
■	2	2 : 満足											
■	3	3 . やや満足											
■	4	4 . 不満											
<p>参加者コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身心如、今を生きる等、武道家ならではのお話で、すべてに通ずるものと思いました ・青春時代道場に通っていました。武術だけではなく人として生き方も教義として学んでいました。若かりし私には武術を学びにきているのに腑におちていませんでした。武術を身につけるにはそれなりの人格が必要であることは、ずっとずっと後で知りました。今立ち戻り、教義に触れられた思いです。 ・このような話は小川さんしか出来ない。たいへんに満足しました。 ・さまざまな人間の考え方を知ること、自分の生き方のヒントをいただけると参加しました。コロナ禍で外へ出る機会も激減し、このような時間をもつことができ解放されます。 ・小川先生の豊かな人生そのエピソードをまじえつつ、少林寺の考え方を分かりやすく伝えて頂けました。日常の中で感じる内容もあり、とても興味深く聞きました ・“今を全力で生きる”とても心にしみました。目先のつまらないことに振り回されたり悩んだりしていることが多いことを反省。苦しいことがあるから、喜びも大きくなるという事を頭に入れて、毎日一生懸命生きる気持ちになりました ・いろいろ思い直しました。忘れていた事を思い出させていただきました。 ・生き方に迷うことが多くあった。自分と、周囲の人、世間。人間の真 												

	<p>の姿は、きれいごとではない部分が多く、苦しい時もある。話の中に思いあたるが多々あった。『いいですね！』『教える事は学ぶこと』 ⇨「自分は、相手の仕事ぶりをほめる役」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生や世界に対する姿勢を学びました。“生を生きる”は、私にとっても大事な教え。他者や、これからは期待することなく、今を生きます ・とても幅広い視点からお話しをしていただき、とても興味深い内容で、とても意義深い内容でした ・DVDの音声が悪く、私の耳では、ほぼ聞き取れずに残念でした。パンフレットにある、先人たちの言葉から、小川先生の解説した文章をくり返し読みました。
--	---

3.3 成年後見制度の普及啓発事業の成果

2020年度 WAM 助成「講演会・研修会事業」の第1回基調講演であった。コロナウイルス感染衛生対策を実施した上で行った。3密を避けるために、参加人数制限を18名までとし、15名が参加した。

参加者評価の割合は

とても満足	57%
満足	43%
やや満足	0%
不満	0%

である。「とても満足」「満足」の割合は100%なので、講演会シラバスは適切であると判断できる。

令和2年度かけはしWAM助成
研修会事業

少林寺拳法 正範士八段

小川 肇 講演会

～記念基調講演～

少林寺拳法

から学ぶ

自らの生き方

について

令和2年 8月 1日 (土)

13:00～14:30

(12:30 開場)

会場：県央福祉会 法人会議室
(神奈川県大和市中央 2-3-19

ウエストビルディング 4階)

アクセス：小田急江ノ島線・相鉄
線「大和駅」下車 北口徒歩 3分

定員：最大 18名

参加費：500円



少林寺拳法 正範士八段 / 金剛禅総本山少林寺 少法師

神奈川県少林寺拳法連盟 顧問兼専務理事

横浜地方法務局人権擁護委員

社会福祉法人県央福祉会 後援会会長 / NPO 法人成年後見センター

かけはし 代表理事

前回感動を呼んだ小川氏の講演。

自分の人生を生きる事に誇りを持てるような、そして聴き終わった後には心が浄化されるような・・・小川氏の温かい語りをお届けします！

主催：NPO 法人成年後見センターかけはし

【お申込み・お問い合わせ】かけはし WAM 助成事業事務局担当：山賀・大場(090-2484-5426)

〒242-0022 神奈川県大和市柳橋 2-1-26 ウイングシバタ 102

TEL:046-244-5551/FAX:046-244-5534 E-mail:info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp

☆お電話・FAX・メールいずれかの方法でお申し込みください。お問い合わせもお気軽にどうぞ。

新型コロナウイルス感染防止対策について

- ・最大入場者数を **18名**までとし、**会場の消毒**及び**定期的な換気**を徹底します
- ・来場者には**マスクを配布**し、**手指の消毒**をしていただきます
- ・会場には行けないけれど講演会を視聴したい方には後日 DVD を郵送します。(※参加費は発生します)

詳しくはかけはしホームページ(<http://www.kakehashi-tomoni.org/>)をご覧ください

記念基調講演会

少林寺拳法から学ぶ 自らの生き方について



「ちぎり絵(花火)」

(県央福祉会メールブルー鶴沼) 青木 八重子さん 三井 閑代さん 大澤 美美江さん
中山 松子さん 坂本 圖志さん 松田 澄枝さん 和田 佳文さん 小林 優子さん

令和2年8月1日(土) 13:00~14:30

県央福祉会
法人会議室

主催 NPO法人成年後見センター かけはし

R・Flagプロジェクト通信



NPO法人成年後見センターかけはし 神奈川県大和市柳橋2-1-26ウイングシバタ102
HP : <http://www.kakehashi-tomoni.org/> E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp
TEL : 046-244-5551 FAX : 046-244-5534



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

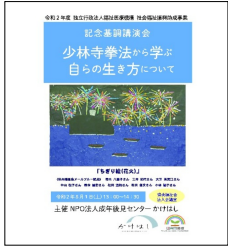
第3回 かけはしWAM助成事業

今を生きる

8月1日(土)、 県央福祉会法人会議室を会場に、小川肇氏による「少林寺拳法から学ぶ自らの生き方について」の講演会を開催しました。

本会は、NPO法人成年後見センターかけはしの「令和2年度WAM助成講演会・研修会事業」の第一弾となる基調講演会となります。

当日は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の為、会場の消毒、参加者の検温、換気、最大参加人数の制限(18名まで)を行い、3密を避けた状態で実施しました。生活支援事業所 グループホームなどの福祉施設



県央福祉会利用者さん達の素敵な絵を表紙にした冊子体のテキスト



その語り口調に誰もが癒される 講師：小川 肇 氏

時間は前にしか進まない

「私は本当に不器用な人間なんです」

意外な言葉で小川氏の講演は始まりました。少林寺拳法少法師、その段位は神奈川県でただ一人の「正範士八段」。

また、横浜市立武道館(2020年7月開館)の建設を目指し武道10団体で結成された市立武道館建設推進協議会の会長も勤め上げている、まさに華々しい経歴をもつ小川氏のどこに不器用な要素があるのか？ 会場が、小川氏から出てくる次の言葉に耳を傾けました。

「だから、人より努力すること、人に負けないパワーをつけることを目指して生きてきました」

自身の歴史を裏付ける力強いそんな言葉を、実に穏やかに、にこやかに述べる小川氏。私たち参加者は、あっという間に小川節に引き込まれていきました。

「時間は前にしか進みません。後ろには絶対戻らないんです。この不可逆的な法則を人間はなかなか受け入れられないんですよ」と笑う。

「そうなんです！しくじると八方塞がりになり、なんとかして時間を戻そう、どうしたら戻るのかなんて考えしまいます。しかし悲しいかな時間を戻す術がない・・・じゃあどうする？」

「今、今、今を生きる」「忘れる、逃げるな、楽しめ」「何かにいつも努力しろ」

少林寺拳法の教えであるこの「身心一如」。今現在の自分を精一杯生きる努力を、決して惜しまずに歩んできた小川氏の言葉だからこそ、私たちの心にこうして染みるのではないのでしょうか。

自らの生き方

あっという間の1時間半でした。自身の病氣・苦悩・失敗、これらを人生のファンデーションと呼ぶ小川氏。

だからこそ克服した時の喜び、幸せがある、と。そして吉田兼好の言葉にあるように「善人のふりをして生きる。生き通せばそれは善人と同じなのだ。」を、日々胸に置き、最大限善人のふりをして生きると誓っている、という。

「今日も一日善人であろうな！」と自分に語りかけ、唯一の今日を始めるのだそうです。

今を全力で生きる小川氏の生き方、精神、心意気に、参加者皆が大いに刺激を受けた講演会となりました。

今回の研修会は9月12日(土)・13日(日)同会場にて開催されます。

第4章 2020年度WAM助成 柱立て3事業



地域連携強化事業

4.1 地域連携強化事業の概要

地域連携強化事業のシンポジウムは2020年11月、2021年1月の2回、実施した。以下に基調講演の概要、パネルディスカッションの概要、参加者アンケート評価、及び参加者コメントを示す。

4.1.1 地域連携シンポジウムその1

テーマ：障がい者の意向をくみ取った地域の支援活動を考える

日時	2020年11月14日（日）11：00-15：30
会場	県央福祉会 法人会議室（相鉄線 大和駅から徒歩3分）
第一部 講演概要	<p>1. 参加者数：38人 （障がいのある子の親御さん、福祉施設職員等）</p> <p>2. 社会福祉法人 横浜やまびこの里 理事 志賀利一氏の基調講演 演題は「知的障害者・発達障害者支援の8050問題 ～親80歳代、子ども50歳代について～」</p> <p>40年近く障がい福祉に携わってきた志賀氏は、参加者の多くが「興味がある」と答えた「8050問題」について、豊富なデータと共に実に丁寧な講義をされた。「8050問題」とは、80代の親が50代の子どもの生活を支える、という日本の社会問題で、この背景にあるのは引きこもりの長期高齢化と言われている。その中で、知的障がいのある子とその親の、孤立した生活環境で生じた痛ましい事件などを振り返り、時代は大きく変わっても、年老いた親が、将来を悲観して障がいのある子を殺める事件は変わらない。これはごく稀な個人的な問題として考えていいのか？。最近の障がい福祉は、生活の支援だけにフォーカスしていた以前とは違い、本人にとっての一番良い生活をどうしていくか、を重視したものになっている。その為には、その人がどういう人生を辿ってきたかの「ライフストーリーワーク」が不可欠であり、過去の情報を引き継ぎ、その人の人生を振り返ることで、最適な支援ができる！これはのぞみの園での実践で気付いたことだと述べられた。</p>
	
基調講演の会場	横浜やまびこの里理事 志賀利一氏

第二部
講演概要

3. パネルディスカッション

テーマ：障がい者の意向をくみ取った地域の支援活動を考える

司会は基調講演の講師、志賀氏。

佐瀬睦夫氏(社会福祉法人県央福社会理事長)は、県央福社会の利用者で、後見人を必要とする方が増えている状を示し、今後更に後見制度の充実化を図りたい、現場力を高めたい、と熱い思いを述べた。

明石洋子氏(社会福祉法人あおぞら共生会副理事長)は、親の立場でエネルギーギッシュな話をされた。「本人を知って、理解して、支援する人を周りにどう作るか。まずは親が子の障がいを認める事、オープンにする事」と。

勝田俊一氏(認定NPO法地域福祉を考える会副理事長)は、自身の法人の支援方針は、本人の夢や希望を実現する為に最大限の努力をする事だと述べ、身上保護を重視し、関係機関との連携も密に活動している話をされた。

武居光氏(社会福祉法人十愛療育会横浜地域福祉センター港南生活支援部長)は、アドボカシー(代弁)が発達しているイギリスの支援をPPTで示し、障がいではなく人間に着目する事、家族から社会に移す安心した回路を作る事、そして重要なのは、本人たちがどれだけ地域で楽しめるかです！と話された。スペシャルなパネリストが集ったシンポジウムは、「周りでどう支えるかを皆で考える時間を持ってました」と志賀氏が締めくくり、閉会になった。



県央福社会理事長 佐瀬睦夫氏



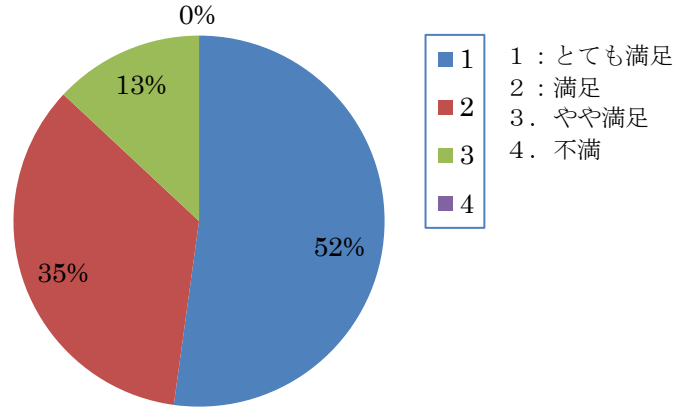
あおぞら共生会副理事長 明石洋子氏



認定NPO法地域福祉を考える会副理事長
勝田俊一氏



十愛療育会横浜地域福祉センター港南生活支援
部長 武居 光氏

<p>参加者 アンケート評価</p>	<h3 style="text-align: center;">11月14日連携シンポジウムその1</h3>  <table border="1" data-bbox="1058 432 1316 622"> <tr> <td>■ 1</td> <td>1 : とても満足</td> </tr> <tr> <td>■ 2</td> <td>2 : 満足</td> </tr> <tr> <td>■ 3</td> <td>3. やや満足</td> </tr> <tr> <td>■ 4</td> <td>4. 不満</td> </tr> </table>	■ 1	1 : とても満足	■ 2	2 : 満足	■ 3	3. やや満足	■ 4	4. 不満
■ 1	1 : とても満足								
■ 2	2 : 満足								
■ 3	3. やや満足								
■ 4	4. 不満								
<p>参加者 コメント</p>	<p>【基調講演 横浜やまびこの里 理事 志賀利一氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現況社会の課題に踏み込んだテーマでした ・ 午前・午後とも充実した内容でした。今後への問題提起ができたと思います ・ 8050 問題の意識、後見人について、もっと知りたい。考えていきたいと思いました ・ 考えるきっかけになりました ・ 「8050 問題」の当事者として、是非、聴講したかった ・ 志賀さんの 8050 の話がデータが豊富で、今、現実に向き合っている障害のある人達の健康問題や歴史を、どう引き継ぐか等の問題に情報をいただき、今後、どう後見を進めていくかの参考となりました <p>【パネルディスカッション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チームの支援力を高める必要を改めて考えさせられました ・ 表題にあったトラブルリスクの事例やどのような対応をしたかの話が聞ければなお良かったです ・ トラブルリスクを抱える人たちの支援の実際がわかるとよかったです ・ マスクなどで聞こえにくい点は、いつも気になる（聴力が弱いせいもあるが）。予想通り、幅広い意見が聞けて良かった ・ それぞれの立場の先生から現状をお聞きでき、とても勉強になりました ・ パネリストが豪華でした ・ とても現実的なテーマで、それぞれの方が実践者なので、お一人 20 分はもったいなくて、それだけが不満でした ・ 成年後見制度、身上保護、意思決定支援、地域、それぞれに更に深掘したお話を、 								

	<p>もっとお聞きしたかったです</p> <ul style="list-style-type: none">・キャストの人がベテランで内容がディープでした・成年後見制度の必要性について・内容が多様で、とても有意義でした・色々な切り口（入口）で、色々な考えが学べました・それぞれのお立場から、本人ファーストで支援を考えていらっしゃる様子良かったです・後見人制度の問題点も含めてよく理解できました・イギリス、USAの事情も参考になりました・色々な立場、視点から、知的障害者支援のあり方や後見人のあり方の話を聞いたこと
--	--

“地域連携シンポジウム その1”

障がい者の意向をくみ取った

地域の支援活動を考える

2020年11月14日(土)

11:00~15:30 *10:30開場*

・会場：県央福祉会 法人会議室

所在地：神奈川県大和市中央2-3-19 ウエストビルディング4階

アクセス：小田急江ノ島線・相鉄線「大和駅」下車、徒歩3分

・定員：最大15名

・参加費：500円



基調講演

11:00-12:30 『知的障がい者・発達障がい者支援の8050問題』

～親80歳代、子ども50歳代について～

講師：志賀 利一 (社会福祉法人 横浜やまびこの里 理事/相談支援部長)

シンポジウム

13:30-15:30 『トラブルリスクを抱える障がい者をどう支えるか？』

司会：志賀 利一 (社会福祉法人 横浜やまびこの里 理事)

パネル講師：佐瀬 睦夫 (社会福祉法人 県央福祉会 理事長)

パネル講師：明石 洋子 (社会福祉法人 あおぞら共生会 副理事長)

パネル講師：勝田 利一 (認定NPO法人 地域福祉を考える会 副理事長)

パネル講師：武居 光 (社会福祉法人 十愛療育会
横浜地域福祉センター-港南 生活支援部長)

主催：NPO法人成年後見センターかけはし

【お申込み・お問い合わせ】 かけはし WAM 助成事業事務局：山賀・大場 (090-2484-5426)

新型コロナウイルス感染拡大防止対策について詳しくはホームページをご覧ください↓↓↓

神奈川県大和市柳橋2-1-26 ウイングシバタ 102

<http://www.kakehashi-tomoni.org/>

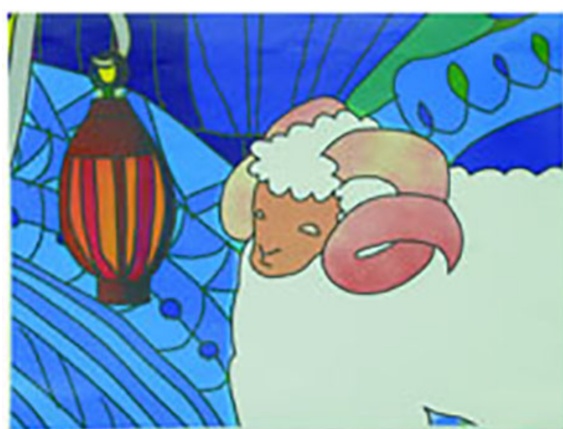
E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp

TEL:046-244-5551/FAX:046-244-5534

☆お電話・FAX・メールいずれかの方法でお申し込みください。お問い合わせもお気軽にどうぞ。

地域連携シンポジウム その1

障がい者の意向をくみ取った 地域の支援活動を考える



(県央福社会 すぷら)「羊が一匹、夜の探検」安藤 聡美さん
「水のなかまたち」荒 奈津美さん 「収穫祭」古田 千晶さん

令和2年11月14日(土) 11:00~15:30

県央福社会
法人会議室

主催 NPO法人成年後見センター かけはし



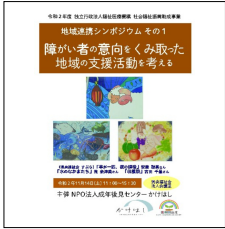
R・Flagプロジェクト通信



NPO法人成年後見センターかけはし 神奈川県大和市柳橋2-1-26ウイングシバタ102
HP : <http://www.kakehashi-tomoni.org/> E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp
TEL : 046-244-5551 FAX : 046-244-5534



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業



県央福祉会利用者さんの素敵な絵を表紙にした冊子体のテキスト

第6回 かけはしWAM助成事業 地域の支援活動を考える

11月14日(土)、県央福祉会法人会議室を会場に「地域連携シンポジウムその1」を開催しました。

本会は、NPO法人成年後見センターかけはしの「令和2年度WAM助成講演会・研修会事業」の第四弾、初のシンポジウムとなります。
当日は、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策の為、会場の消毒、参加者の検温、常時換気を行い実施しました。
爽やかな秋晴れの中、生活支援事業所、グループホームなどの福祉施設職員、学校職員、障がいのある子の親など延べ38名(会場外参加含む)が参加しました。

基調講演

午前の部の基調講演は、**志賀利一氏**(社会福祉法人横浜やまびこの里理事 写真⑤)。

40年近く障がい福祉に携わってきた志賀氏は、参加者の多くが「興味がある」と答えた「8050問題」について、豊富なデータと共に実に丁寧な講義をされました。「8050問題」とは、80代の親が50代の子どもの生活を支える、という日本の社会問題で、この背景にあるのは引きこもりの長期高齢化と言われ、障がいのある子とその



志賀利一氏

親の、孤立した生活環境で生じた痛ましい事件などを振り返りました。時代は大きく変わっても、年輩いた親が、将来を悲観して障がいのある子を殺める事件は変わらない。これはごく稀な個人的な問題として考えていいのか?と志賀氏は訴えます。最近の障がい福祉は、生活の支援だけにフォーカスしていた以前とは違い、本人にとつての一番良い生活をどうしていくか、を重視したものになっている。
その為には、その人がどういう人生を辿ってきただかの「ライフストーリーワーク」が不可欠であり、過去の情報を引き継ぎ、その人の人生を振り返ること、最適な支援ができる!これはのぞみの園での実践で気付いたことなんです、と締めくくりました。



集った豪華講師陣

シンポジウム

かけはし初の試みとなったシンポジウムは、午前の基調講演の講師、志賀氏の司会で始まり、**佐瀬睦夫氏**(社会福祉法人県央福祉会理事長)、**明石洋子氏**(社会福祉法人あおぞら共生会副理事長)、**勝田俊一氏**(認定NPO法人地域福祉を考える会副理事長)、**武居光氏**(社会福祉法人十愛療育会横浜地域福祉センター(港南生活支援部長))。この豪華キャストのパネル講演と、志賀氏の絶妙な司会で、午後の部の会場も大いに盛り上がりました。



佐瀬氏 明石氏

「本人を知って、理解して、支援する人を周りにどう作るか。まずは親が子の障がいを知る事、オープンにする事」と。**勝田氏**は、自身の法人の支援方針は、本人の夢や希望を実現する為に最大限の努力をする事だと述べ、身上保護を重視し、関係機関との連携も密に活動しているお話をされました。
武居氏は、アドボカシー(代弁)が発達しているイギリスの支援をPPTで示し、障がいではなく人間に着目する事、家族から社会に移す安心した回路を作る事、そして重要なのは、本人たちがどれだけ地域で楽しめるかです!と生き生きとお話されました。
スペシャルなパネリストが集ったシンポジウムは、「周りでどう支えるかを皆で考える時間を持つてました」と志賀氏が締めくくり、閉会しました。



勝田氏 武居氏

次回は12月12日(土)・13日(日)研修会の模様をお伝えします。

4.1.2 地域連携シンポジウムその2

テーマ：広域の障がい者支援ネットワークの利活用方法を考える

日時	2021年1月16日(土) 13:00-16:45
会場	県央福祉会 法人会議室(相鉄線 大和駅から徒歩3分)
<p>第一部 講演概要</p>	<p>1. 参加者数：32人 (障がいのある子の親御さん、福祉施設職員等)</p> <p>2. 社会福祉法人 北摂杉の子会 理事長 松上利男氏の基調講演 演題：社会福祉法人の広域連携の意義と課題 自閉スペクトラム症のある人の地域での暮らしを支える～北摂杉の子会～ 50年近く障がい福祉に携わってきた松上氏が語る、社会福祉法人の広域連携の意義と課題。軽快な関西弁で参加者の笑顔を誘い、あっという間に心を掴んだ。長年に渡る実践で確立された理念と、明確なミッション。必要とされる支援サービスの開拓を先駆的に展開されたことを説明された。 「施設は、障がい者の権利を守る砦(とりで)でないとだめ！」そして、我々の法人は何故存在するのか、何をすべきか？を考え、あくまでもニーズに向き合うこと。潜在的なニーズをどのように掘り起こしていくかの活動が重要で、と。その中で大切なのは、「根拠のある支援、つまり説明ができる支援。これが専門性なのです、と。さらに、「人財育成」とは「地域で必要とされる人財を、地域の皆様から託されて育成している、「人の成長が組織の成長！社会福祉法人は地域の財産です！」と力強く述べました。</p>
	
<p>基調講演の会場</p>	<p>北摂杉の子会 理事長 松上利男氏</p>

第二部
講演概要

3. パネルディスカッション

テーマ：広域の障がい者支援ネットワークの利活用方法を考える

司会は志賀利一氏(社会福祉法人横浜やまびこの里理事)。パネリストは、志賀氏の
他3名。

佐瀬睦夫氏(社会福祉法人県央福祉会理事長)は、広範囲に広がる事業所の支援活
動は、地域連携が無いと難しい、と指摘された。超多忙な職員達を気遣いながら
も、きめ細かい支援ができていますか?と自問された。

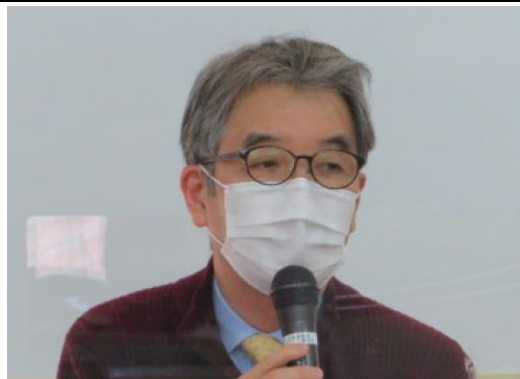
志賀氏は、地域支援マネージャーという国の支援の下、横浜市における支援の取
組みを説明された。"何もできない人、何もしない人"ではなく"何ができるの
か、どういった支援があればできるのか"を見つける為に、利用者と事業所職員が
一緒にやってみて考える実践の話をされた。

就学前の子どもの施設であるめばえ学園の園長樋口氏は、子どもが、自分と周り
を理解し自分を伝えようとしていけるように、また同時に、親が前向きに自信をも
って子育てしていけるように、と話された。

松村直道氏(認定NPO法人東葛市民後見人の会理事長)氏は、自身の法人の活動
について、今回はその中身を詳しく話された。地域の中で行政が対応できないニー
ズが出てきた時、ネットワークづくり・広域連携が必要になってくる、とわかりや
すく説明された。



佐瀬睦夫氏
(社会福祉法人県央福祉会 理事長)



志賀利一氏
(社会福祉法人横浜やまびこの里理事)

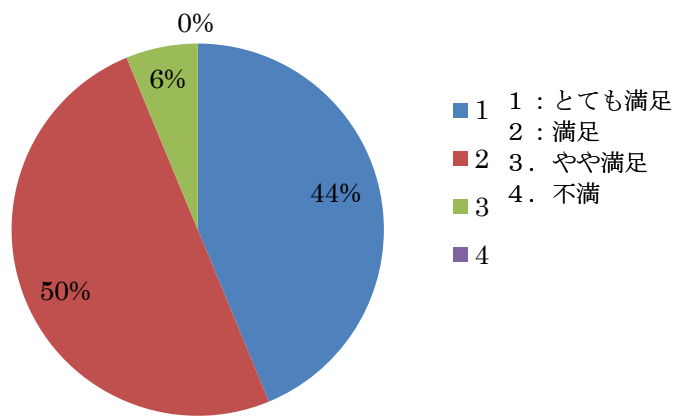


樋口美津子氏
(社会福祉法人嬉泉めばえ学園園長)

松村直道氏
(認定NPO法人東葛市民後見人の会理事長)

1月16日連携シンポジウムその2

参加者アンケート評価



参加者コメント

【松上利男氏の基調講演】

- ・行動障害を受け入れてる NPO 法人の理事長に聞かせたかった
- ・松上利男講師の講義はとても実践的でわかりやすかった
- ・どこの地域でも教育関係への対応は大きな力を持つと思っている。全国で担当教員・校長も含めて連携が出来ると具体的な支援が出来る事が多い (困った時のスーパーバイザーの存在を交えたコンサルテーション)
- ・講演内容はとても幅広く複雑でしたが、お話はとても分かりやすく頭に入りました
どうしても制度の中で仕事をしてしまう (考えてします) 傾向があるのでニーズに向き合うことの重要性を改めて考えることができました
- ・どの年代でも・どの分野でも・どの地域でも、どんどん新しい取り組みや自分たちで変革していくことができると感じました。仕組みとして組織的に利用される側に立った支援活動を行っていくことの大切さを基礎に置き取り組んでいきます

- ・行動障がい者用グループホームの現状を知ることが出来て良かったです
- ・松上先生から制度はかけていかねばというご発言があり、自閉症者を持つ身としては。時には能動的に動く必要があると感じました

【パネルディスカッション】

- ・就学前の小児の愛情のかけ方について勉強になった
- ・利用者に対するアプローチの仕方について学ぶことができた
- ・地域との連携に対する重要性を改めて知れたから。
- ・焦点がぼやけていた（広すぎた）ように思う
- ・講師陣がとても素晴らしい
- ・地域との連携の大事さを学び、改めて取り組みたい
- ・貴重で大事なことを学ぶことができました
- ・少しおなががいっぱい（盛りだくさん）でした。貴重なお話したくさん聞けて良かったと思います
- ・市民後見制度ボランティアという考え方を知ることができた
「後見人の会」松村さんの事例は、ソーシャルワーカーの動作と思えて、とても興味を持ちました

“地域連携シンポジウム その2”

広域の障がい者支援ネットワークの

利活用方法を考える

2021年1月16日(土)

13:00~16:45 *12:30 開場*

・会場：県央福祉会 法人会議室

所在地：神奈川県大和市中央 2-3-19 ウエストビルディング 4階

アクセス：小田急江ノ島線・相鉄線「大和駅」下車、徒歩3分

・定員：最大25名

・参加費：500円



基調講演

13:00-14:30 『自閉スペクトラム症のある人の地域での暮らしを支える』
～北摂杉の子会での実践を通して～

講師：松上 利男 (社会福祉法人 北摂杉の子会 理事長)

シンポジウム

14:45-16:45 『トラブルリスクを持つ障がい者を
皆でどう支えるか？』

司会：日誌 正文 (独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設
のぞみの園 事業企画局研究部 部長)

パネル講師：佐瀬 睦夫 (社会福祉法人 県央福祉会 理事長)

パネル講師：志賀 利一 (社会福祉法人 横浜やまびこの里 理事/相談支援部長)

パネル講師：石井 啓 (社会福祉法人 嬉泉 理事長)

パネル講師：樋口 美津子 (社会福祉法人 嬉泉 めばえ学園 園長)

パネル講師：松村 直道 (認定NPO 法人東葛市民後見人の会 理事長)

主催：NPO 法人成年後見センターかけはし

【お申込み・お問い合わせ】 かけはし WAM 助成事業事務局：山賀・大場 (090-2484-5426)

新型コロナウイルス感染拡大防止対策について詳しくはホームページをご覧ください↓↓↓

神奈川県大和市柳橋 2-1-26 ウイングシバタ 102 <http://www.kakehashi-tomoni.org/>

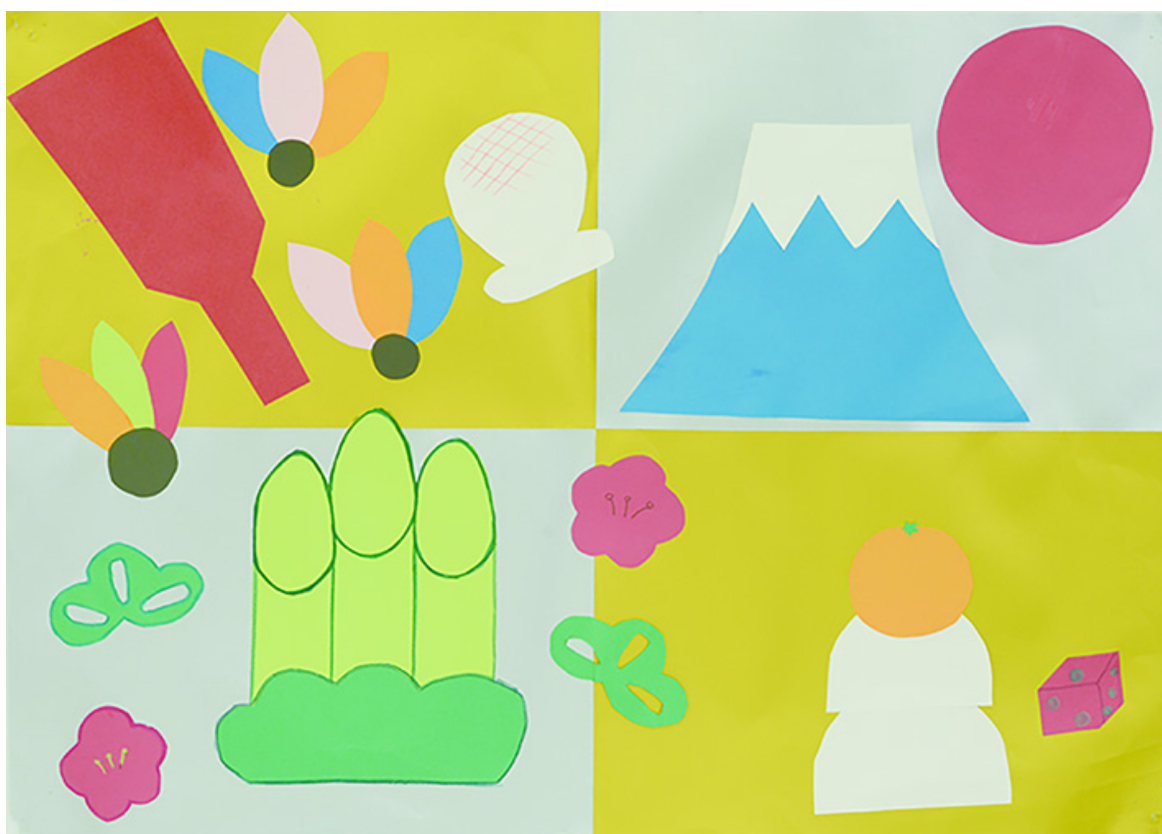
E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp

TEL:046-244-5551/FAX:046-244-5534

☆お電話・FAX・メールいずれかの方法でお申し込みください。お問い合わせもお気軽にどうぞ。

地域連携シンポジウム その2

広域の障がい者支援 ネットワークの 利活用方法を考える



「一餅、二門松、三羽子板」

(県央福祉会 ふきのとう向生舎) star11グループのみなさん

令和3年1月16日(土) 13:00~16:45

県央福祉会
法人会議室

主催 NPO法人成年後見センター かけはし



R・Flagプロジェクト通信



NPO法人成年後見センターかけはし 神奈川県大和市柳橋2-1-26ウイングシバタ102
HP: http://www.kakehashi-tomoni.org/ E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp
TEL: 046-244-5551 FAX: 046-244-5534



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

第8回 かけはしWAM助成事業 広域における障がい者支援

1月16日(土)、県央福祉社会法人会議室を会場に「地域連携シンポジウムその2」を開催しました。

本会は、NPO法人成年後見センターかけはしの令和2年度WAM助成講演会・研修会事業の第六弾、今年度事業の最後を飾るシンポジウムとなります。

当日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の為、会場の消毒、参加者の検温及び衣服消毒・手指消毒、常時換気を行い実施しました。

基調講演

第一部の基調講演は、大阪府高槻市に法人を構



県央福祉社会利用者さんの素敵な絵を表紙にした冊子体のテキスト



松上 利男 氏

える松上利男氏(社会福祉法人北摂杉の子会理事 長写真⑤)。

「施設は、障がい者の権利を守る(とりで)でないのだめ!我々の法人は何故存在するのか、何をすべきか?を考え、あくまでもニーズに向き合うこと。潜在的なニーズをどのように掘り起こしていくかの活動が重要なのだ」と。

シンポジウム

今年度2回目となるシンポジウムは、大和・横浜・東京・千葉のパネリストが集結しました。



佐瀬 氏 志賀 氏



樋口 氏 松村 氏

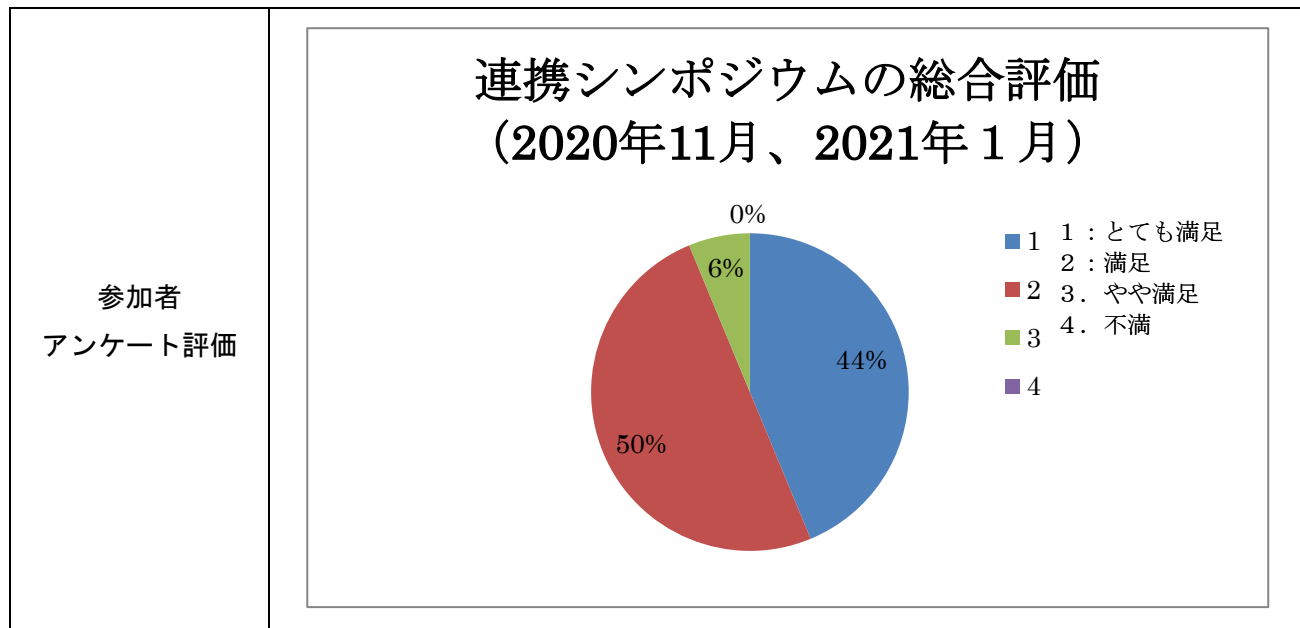
司会は、急遽パネリストと兼任してくださった志賀利一氏(社会福祉法人横浜やまびこの里理事)。

就学前の子どもの施設であるめばえ学園の園長樋口氏のお話は、幼児教育に携わる方や、子を持つ親へのメッセージにも聴こえました。子どもが自分と周りを理解し自分を伝えようとしていけるように、また同時に、親が前向きに自信をもって子育てしていけるように、と。紙面では書ききれない沢山の愛に満ちた感動的な実践のお話をされました。

4.3 地域連携強化事業の成果

地域連携強化事業のシンポジウムは2020年11月と2021年1月に実施した。2回の参加者アンケート結果を積算して作成した結果を図4-1に示す。

図4-1 参加者アンケート評価



参加者評価の割合は

とても満足 49%

満足 41%

やや満足 10%

不満 0%



である。「とても満足」「満足」の割合は90%なので、地域連携シンポジウムのシラバスは適切であると判断できる。

第5章 WAM助成 柱立て4事業

トラブル・シューター研修会事業

5.1 トラブル・シューター研修会事業の概要

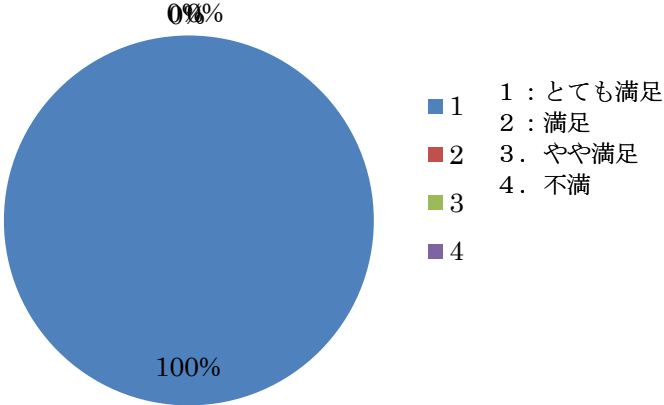
障がい者が抱える障がい特性が原因で生じる社会的トラブルについて、「トラブル・シューター研修会事業」の研修会を、2020年12月12日・13日の2日間、実施した。以下に講師の講演概要、参加者アンケート評価及び参加者コメントを記載する。

日時	2020年12月12日(土) 10:30-14:45	
会場	県央福祉会 法人会議室(相鉄線 大和駅から徒歩3分)	
一日目 講演概要	<p>1. 参加者数: 22人 (障がいのある子の親御さん、福祉施設職員等)</p> <p>2. 県央福祉会 理事長 佐瀬睦夫氏の講演 演題: なぜ、県央福祉会が成年後見支援センターを設立したか! 佐瀬睦夫氏は「NPO法人成年後見センターかけはし」を何故設立したのか、そもそも成年後見制度とは?など、成年後見制度の概要説明。国家資格を持つ職員が沢山いる県央福祉会の現場力を向上するには、職員にチャンスを与えて戦力にしたい。個々が使命感を持ち、現場の力になっている事に是非プライドを持って欲しい、と述べられた。</p> <p>3. 日本自閉症副会長 弁護士 辻川圭乃氏の講演 演題: トラブルシューターの実践報告その1 ~知的障がい者・発達障がい者の社会的トラブル報告及び支援方法について~ 辻川講師は、障がいのある人が社会の様々なバリアによって巻き込まれるトラブルの報告と対処方法が話された。これまでの、警察を相手に苦労されたこと、障がい者への理解が得られず和解に至らなかったことなどが、独特な辻川節で展開された。辻川氏は、自閉症をもつ、ご自身のお子さんが、社会に出た時に少しでも住みやすい社会になって欲しいと願い、活動を始めたそうです。社会にある、障がいのある人に対する間違った見解は、早い段階からの環境づくりによる、と指摘され、これまでのその人の人生に、障がい者との接点が当たり前にあり、普段から理解をしていれば、拒否反応は起きないと報告された。そうやって地域の中で繋がり、地域の中でトラブルを未然に防ぐことが大事なのだと締めくくりました。</p>	
		
	県央福祉会 理事長 佐瀬睦夫氏	日本自閉症副会長 弁護士 辻川圭乃氏

<p>参加者アンケート評価</p>	<h3 style="text-align: center;">12月12日研修会</h3> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>■ 1</td> <td>1 : とても満足</td> </tr> <tr> <td>■ 2</td> <td>2 : 満足</td> </tr> <tr> <td>■ 3</td> <td>3 . やや満足</td> </tr> <tr> <td>■ 4</td> <td>4 . 不満</td> </tr> </table>	■ 1	1 : とても満足	■ 2	2 : 満足	■ 3	3 . やや満足	■ 4	4 . 不満
■ 1	1 : とても満足								
■ 2	2 : 満足								
■ 3	3 . やや満足								
■ 4	4 . 不満								
<p>参加者コメント</p>	<p>【県央福祉会 理事長 佐瀬睦夫氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐瀬先生の「社会福祉の世界では、模倣値と経験値ばかりで長年やってきた。原因不明のやり方で感覚的にやってきた。」同感です。今の私は、多少理論はわかっても、どう行動したらいいのかわからないことが実に多くあります ・職員の質について等、現状をよく把握された上で今後の課題改善に向けた意気込みが感じられ、心強く思いました。 ・理事長の想いと志をお聞きする事が出来て、とても心を打たれました ・自分の息子の為に話を聞きに来ましたが、何か自分出来る事がないか。考えていかなければならない！！と思いました ・講師の方のご経験も交えた内容で興味深く聞くことができました <p>【日本自閉症副会長 弁護士 辻川圭乃氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辻川先生の地道な対策の積み重ねが、社会を変えたいと思えました ・現実には、遅々として理解が進まない。歯がゆい思い。トラブルに出会うと「ほんとうは、どうだったのか」が置き去りにされてしまう怖さが消えない ・個々に特性があり、理解できる人が、そばでアドバイスできる体制が作れるか？本人が信頼できる人が傍にいるのが良いが、困難な現実がある。話の中で「セルフアドボカシー支援」の件がきになった ・トラブルは発生し続けると思います。障害理解の不足で事件や問題が発生した場合、その後の取り組みを考える必要もあるのではないかと（障害者も含めて） ・障害者が日常関わる地域社会・施設・学校などの取り組みも重要に思われ 								

	<p>ました</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎的な知識と表層的な活動による解決策が多く感じられました。より具体的で実際的なお話をより多く伺いたかったです。・後見制度にとどまらず、広く日常の小さな自己決定から法律・制度のことまで、権利の尊重を大切にしたいと改めて思いました
--	---

日時	2020年12月13日(日) 10:30-14:45	
二日目 講演概要	<p>1. 参加者数：19人 (障がいのある子の親御さん、福祉施設職員等)</p> <p>2. 湘南心理カウンセリング研究所所長 角山富雄氏の講演 演題：『逆転の発想！～コロナ禍の置き土産～不安について考える』 という演題のもと、「オブジェクション大歓迎！気になることはどんどん出して対話型形式の講演会にしましょう」と始まりました。 この80分間の講演はとても貴重な時間となり、コロナ禍で生きる私たちの確かなエネルギーになったのではないのでしょうか。角山氏の哲学的なお話、ユーモア、そして胸に残るエピソード。参加者は皆、それを持ち帰り、自分なりに考えを深めているのではないかと思います。ゆとりのある“今”を生きる事は“不安”の中で生きていくための創造力を生むのでしょうか。</p> <p>3. 坂本千花法律事務所 社会福祉士・弁護士 坂本千花氏の講演 演題：トラブルシューターの実践報告その2 ～知的障害者・発達障害者の社会的トラブルと法的対策について～ 大学卒業後、特別養護老人ホームに勤務していた坂本氏が、どのような経緯を経て弁護士になったのかの話では、坂本氏の心を熱く動かす力、目的実現に向けた行動力を感じた。障がいを持つ人が加害者になってしまったら、一層不利にならないようにするにはどうするか、どういう支援が必要なのか、とても明快にエネルギーに展開された。「障がいは、本人ではなく社会にある」、「障がいの知識も理解も足りない社会の中で、犯罪を犯さざるを得なくなった背景を抱え生きる彼等への支援が必要である」と力説された。刑務所に入らないようにする“入口支援”、刑務所を出た後の居場所を確保する“出口支援”の話は、とても興味深いものであった。弁護士のやる事は、その人の生活課をキッチリ明らかにすること。ただ単に罪を軽くする為に福祉をこじつけにすることがないように、障がいのある人たちの支援を色々な分野が繋がって行なっていきましょう！と爽やかに締めくくりました</p>	
		
<p>湘南心理カウンセリング研究所所長 角山富雄氏</p>	<p>社会福祉士・弁護士 坂本千花氏</p>	

<p>参加者アンケート評価</p>	<p style="text-align: center;">12月13日研修会</p>  <p style="text-align: center;">0%</p> <p style="text-align: center;">100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1 1 : とても満足 ■ 2 2 : 満足 ■ 3 3 . やや満足 ■ 4 4 . 不満
<p>参加者コメント</p>	<p>【湘南心理カウンセリング研究所所長 角山富雄氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における「不安」というテーマは、まさにタイムリーで興味がありました ・不安⇒奥深い展開・提示。受ける側に選択の余地。 <p>【社会福祉士・弁護士 坂本千花氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者が様々なトラブルに巻き込まれている事が多いので、詳しく知りたかった。事例を通しての講演だったので、とてもわかりやすかったです ・刑事事件に焦点を定めて明快。日常的なトラブルシューティングについて聞きたい ・障害者の特性を理解している弁護士が少ないことは、よく理解できました。事例もわかり易く、福祉とは違う刑事司法の発想は、興味深く拝聴しました ・実際の後見活動の中で、弁護士さんに相談したくなることもあります。障害者の支援事体の特殊性も考えさせられました

“身近な問題に目を向けよう”

トラブル・シューター 研修会

2020年 12月12日(土)・12月13日(日)

10:30～14:45 (両日とも) *10:00 開場*

・会場：県央福祉会 法人会議室

所在地：神奈川県大和市中央2-3-19 ウェストビルディング4階

アクセス：小田急江ノ島線・相鉄線「大和駅」下車、徒歩3分

・定員：最大25名

・参加費：1日 1,000円 (両日とも)



12月12日(土)

【制度】 10:30-12:00 『なぜ、県央福祉会が
成年後見支援センターを設立したか!』

講師：佐瀬 睦夫 (社会福祉法人 県央福祉会 理事長)

【制度】 13:15-14:45 実践報告その1 『知的障がい者・発達障がい者の
社会的トラブル報告 及び 支援方法について』

講師：辻川 圭乃 (辻川法律事務所 弁護士)

12月13日(日)

【基礎】 10:30-12:00 逆転の発想! ~コロナ禍の置き土産~
『不安について考える』

講師：角山 富雄 (湘南心理カウンセリング研究所 所長)

【制度】 13:15-14:45 実践報告その2 『知的障がい者・発達障がい者の
社会的トラブル と 法的対策について』

講師：坂本 千花 (坂本千花法律事務所 弁護士)

主催：NPO 法人成年後見センターかけはし

【お申込み・お問い合わせ】 かけはし WAM 助成事業事務局：山賀・大場 (090-2484-5426)

新型コロナウイルス感染拡大防止対策について詳しくはホームページをご覧ください↓↓↓

神奈川県大和市柳橋2-1-26 ウイングシバタ 102 <http://www.kakehashi-tomoni.org/>

E-mail: info-kakehashi@galaxy.ocn.ne.jp TEL:046-244-5551/FAX:046-244-5534

☆お電話・FAX・メールいずれかの方法でお申し込みください。お問い合わせもお気軽にどうぞ

トラブル・シューター 研修会



「メリークリスマス」

(県央福祉会パステルファーム ワーキングセンター) Fグループのみなさん

令和2年12月12日(土)・13日(日)

10:30~14:45

県央福祉会
法人会議室

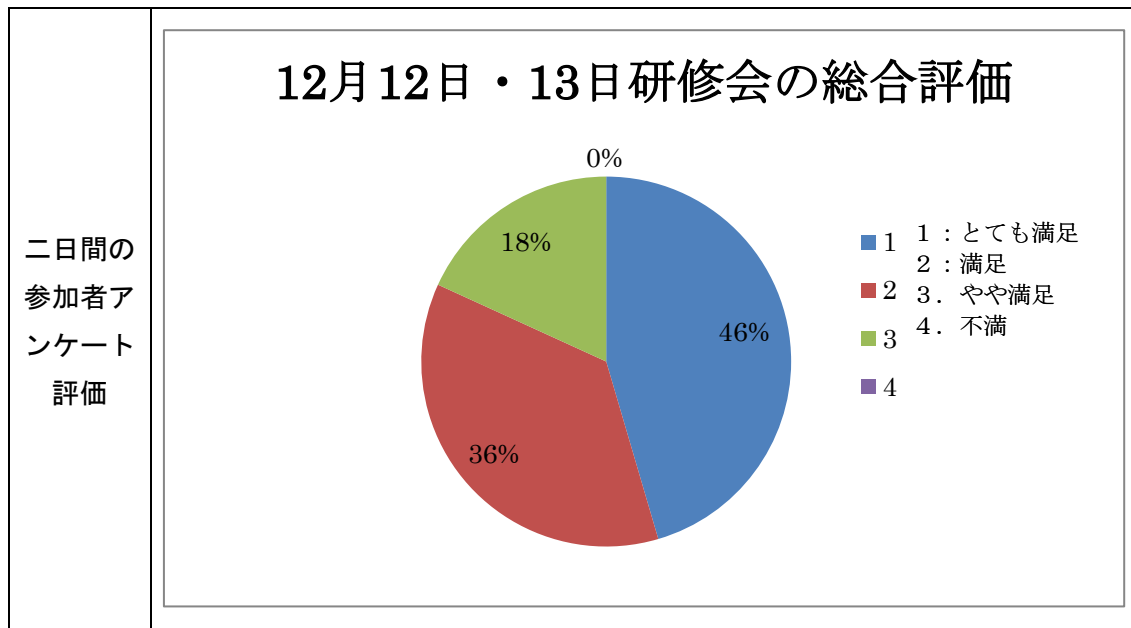
主催 NPO法人成年後見センター かけはし



5.3 トラブル・シューター研修会事業の成果

トラブル・シューター研修会事業の研修会は2020年12月12日・13日の2日間、実施した。2日間の参加者アンケート結果を積算して作成した結果を図5-1に示す。

図5-1 2日間の参加者アンケート評価



参加者評価の割合は

とても満足 46%

満足 36%

やや満足 18%

不満 0%

である。「とても満足」「満足」の割合は82%なので、トラブル・シューター研修会のシラバスは適切であると判断できる。

第6章 WAM助成 柱立て5事業

WAM 連携支援専門家チームとの継続的強化事業

6.1 WAM 連携支援専門家チームとの継続的強化事業の概要

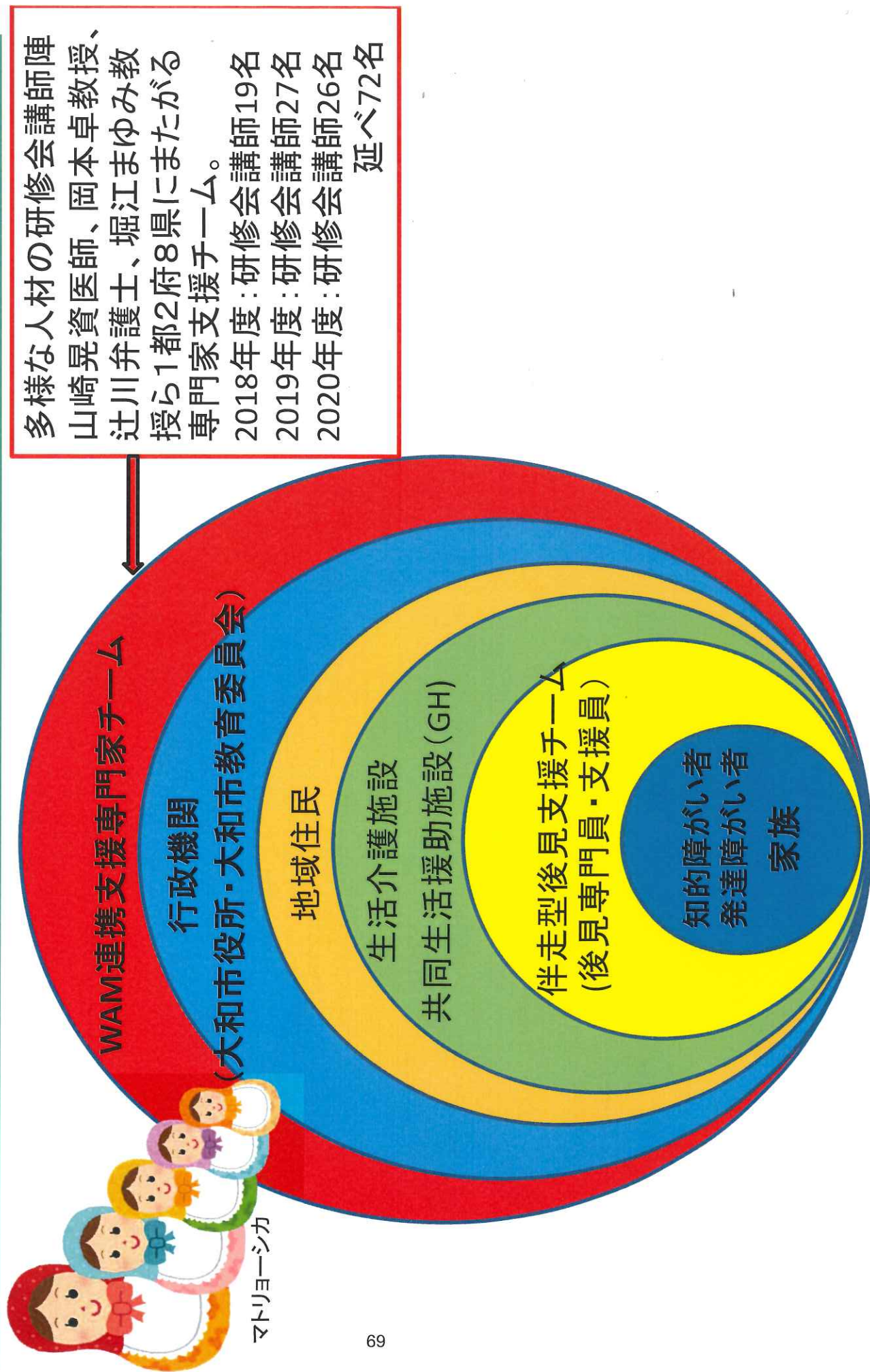
当初の事業企画では、コロナウイルス感染が終息する時期に、京都、横浜、高崎、東京の福祉施設を訪問し、WAM 連携支援の福祉スタッフと交流し、連携強化に努める予定であった。しかし、コロナウイルス感染拡大に伴い、当法人が非常事態宣言下の神奈川県大和市に事務所がある為、福祉施設の現地訪問は困難な状況に至った。そのため、広報誌「R・Flag プロジェクト通信」を配信することで、持続的協力体制の維持に努めた。

6.2 WAM 連携支援専門家チームとの継続的強化事業の成果

本年度は、講演会・研修会・地域連携シンポジウムで、26 名の方々と知己を得た。図 6-1 にかげはし独自に考案した「地域後見入れ子構造モデル」を示す。3 年間に延べ 72 名の講師との人脈が創られたことができたので、WAM 連携支援専門家チームとの「継続的強化の基礎基盤」は強化されたと評価される。

社会福祉分野では、「人とのふれ合い」のコミュニケーションが大切であるので、前年度の現地視察 6 件と比較すると、現地視察は 0 件だったので、はっきりした形の成果は得られなかった。

図6-1 かけはし独自の「地域後見入れ子構造モデル」の考案・実践



第7章 2020年度WAM助成 柱立て6事業

広報事業

7.1 広報事業の概要

第1章 図1-3の「2020年度WAM助成事業計画」に従い、次の3つの広報事業を実施した。

7.1.1 かけはしホームページ

2019年度WAM助成事業でホームページを大幅に更新し、情報発信力を強化した。図7-1にトップページの画面を、図7-2にWAM助成研修会情報を示す。更新回数は20回。



図7-1 ホームページのトップページ

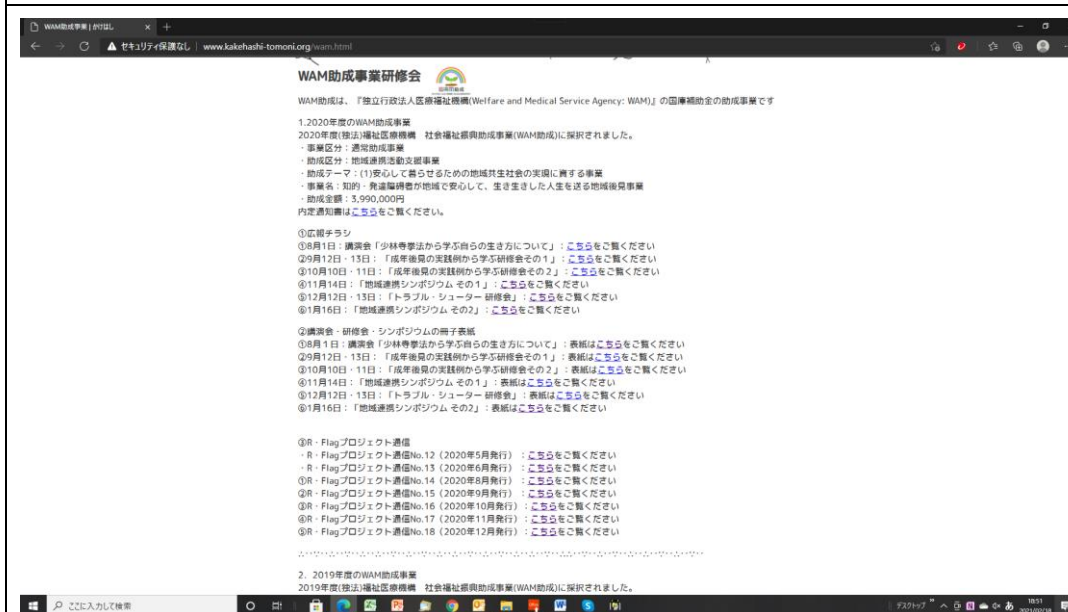


図7-2 WAM助成研修会の情報

7.1.2 R・Flag プロジェクト通信

講演会・研修会・シンポジウムごとに講演内容を記事形式で編集した「R・Flag プロジェクト通信」を制作した。通信 No.12～通信 No.17 の印刷枚数は 4,500 枚、通信 No.18・通信 No.19 の印刷枚数は 1,000 枚を印刷した。通信 No.18・通信 No.19 の印刷枚数の削減は WAM 助成事業予算支出の軽減の為、実施した。

郵送配布先は、障がい者の親御さん、前年度の研修会参加者、連携団体、神奈川県知的障害者施設連合会、行政機関等に郵送配布した。R・Flag プロジェクト通信は第 2 章～第 5 章に掲載しているため、第 2 章～第 5 章をご覧ください。

7.1.3 広報チラシ

講演会・研修会・シンポジウムごとに広報チラシを制作した。印刷枚数は毎回 2,000 枚。郵送配布先は、障がい者の親御さん、前年度の研修会参加者、連携団体、神奈川県知的障害者施設連合会、行政機関等に郵送配布した。広報チラシは第 2 章～第 5 章に掲載しているため、第 2 章～第 5 章をご覧ください。

7.2 福祉新聞・やまと社協だより

第2回目の地域連携シンポジウムは、2021年2月8日発行の福祉新聞4面に掲載された。福祉新聞の発行部数は15,000部で、購読者は全国の社会福祉協議会、社会福祉法人等である。

広域の障害者支援考える

地域連携シンポジウム

神奈川県大和市のNPO法人「成年後見センターかけはし」(小川肇・代表理事)が主



パネルディスカッションに参加した志賀理事

催する「地域連携シンポジウムその2」が1月16日、同市内の泉央福祉会で開かれた。福祉医療機構(WAM)の助成事業。「広域の障がい者支援ネットワークの活用方法を考える」がテーマで、福祉施設、学校職員や障害者の家族など、視聴者も含めて32人が参加した。

第1部では50年近く障害福祉に携わってきた「北摂杉の子会」(大阪府高槻市)の松上利男理事長が「社会福祉法人の広域連携の意義と課題」と題して基調講演。法人の理念「地域に生きる」に基づき、必要とされる支援サービスの開拓を先駆的に展開している松上理事長が、大阪府内で実施されている強度行動障害者支援事業、自閉症・知的障害者の訪問介護事業などの実践を紹介した。

第2部では東京都や千葉、神奈川県で障害者支援活動を積極的に実施している佐瀬睦夫・泉央福祉会理事長▽志賀利一・横浜やまびこの里理事▽樋口美津子・嬉泉 めばえ学園長▽松村直道・東葛市民後見人の会理事長の4人がパネリストとして参加。「トラブルリスクを持つ障がい者を皆でどう支えるか？」をテーマにパネルディスカッションが行われ、「障がい者支援の広域連携」の重要性を改めて確認した。

次頁は、大和市社会福祉協議会の広報誌「社協だより」に地域連携シンポジウムの開催告知が掲載されたもの。発行日は2020年12月15日である。



しゃ きょう 社協だより



社会福祉協議会（社協＝しゃきょう）は、市民の参加と協力によって運営され、地域福祉の推進を図る民間の組織です。

表紙：大和市社協ふれあい特集 VOL.63（取組み編）

「大和のぎく作業所～日々の生活に彩りを添えて～」……………（1）～（2）

- すぐ話せる手話 NO.124 / ふくしのころみ～つけた！「暮らしの福祉探検隊」⁹⁸ /
年末たすけあい運動と配分金申請のご案内……………（3）
- 令和2年度福祉功労者等の表彰者ご報告 / 福祉活動における受賞者ご紹介……………（4）
- 大切にしますあなたの善意……………（5）
- 市社協情報コーナー……………（6）
- 大和市子育て支援センター情報……………（7）
- きて・みて・きいて / ぼしゅう・募集・ぼしゅう……………（8）

もくじ

市社協ふれあい特集 Vol.63（取組み編）

大和のぎく作業所～日々の生活に彩りを添えて～



※上の写真は、職員の見守る中、自主製品である手すきの和紙をつくっている様子
下の写真は左から、手すきの和紙と染料のこうぞ、絞り染めのハンカチ、トンボ玉でできたネックレス

【大和のぎく作業所】（大和市下和田1276-1）

障害者基本法では、毎年12月3日から9日までを「障害者週間」と定めています。そこで今回の特集は、社会福祉法人やまねっとが運営する「大和のぎく作業所」をご紹介します。



- この広報紙の財源には共同募金の一部をあてています。
- ユニバーサルデザインフォントの採用により、高齢者や障がいのある人、みなさんにとって「見やすい」紙面づくりに取り組んでいます。



●地域連携シンポジウムその2●

と き：1月16日(土) 13:00～16:45
 ところ：県央福祉社会法人会議室
 (中央2-3-19 ウエストビルディング4階)

定 員：25名(事前申込・先着順)
 申込み } NPO法人成年後見センターかけはし
 主 催 } TEL：046-244-5551
 FAX：046-244-5534



【基調講演】13:00～14:30

講師：社会福祉法人北摂津杉の子会
 理事長 松上利男 氏

演題：「(仮称)広域の障がい者支援ネットワークについて」

【パネルディスカッション】14:45～16:45

内容：広域の障がい者支援ネットワークの利活用方法を考える

司会：国立重度知的障害者総合施設「のぞみの園」
 事業企画局研究部 部長 日詰正文 氏



大和市で働く「ケアニン」によるトークイベント付き
 これからの福祉を支える学生に向け介護の仕事の魅力を伝える上映会

映画上映会



主催：社会福祉法人大和市社会福祉協議会

協力：大和市長齢者福祉施設協議会

※会場内では、マスクの着用や、手洗い等のご協力をお願いします。

※当日発熱や咳などの症状がある場合は参加をお控えください。

ケアニン

～あなたでよかった～

認知症で人生終わりになんて、僕がさせない。
 高齢者施設で働く大森圭は介護の魅力は何か悩みを抱えていた。「なんとなく」で始めた介護の仕事に、いつしか本気で向かい合うようになっていく圭の成長を描くストーリー。

申込先着順(定員150名)

参加無料

※中・高・大学生及び教職員等を対象とします

トークイベントも開催!

福祉の魅力を伝えるプロジェクトのメンバーが実際に働く上で感じる介護の魅力をお伝えします!

※福祉の魅力を伝えるプロジェクト=高齢者施設で働く若手職員で構成

日時：2月6日(土) 9:00 開場 ※上映会は9:30～12:00

場所：大和市保健福祉センター1階ホール(鶴間1-31-7)

申込み：やまとボランティアセンター 046-260-5643

発行 社会福祉法人 大和市社会福祉協議会
 編集 広報委員会
 大和市鶴間一丁目25番15号 大和市役所第2分庁舎内
 TEL:046-260-5633 FAX:046-263-2446
 E-mail: vc@yamato-shakyo.or.jp
 URL: http://www.yamato-shakyo.or.jp/



大和市社会福祉協議会

大和市社協



◎社協だよりへの広告掲載募集!

お問い合わせは、やまとボランティアセンターへ
 (TEL:046-260-5643 FAX:050-3730-9430)

※次号の発行は2月15日です。

掲載したい情報は、12月18日(金)までにお寄せ下さい。
 なお、紙面が埋まり次第、受付を締め切らせていただきます。ご意見・ご感想もお待ちしております。

7.3 広報事業の成果

2018年4月～2021年1月末までに入手できた団体・個人情報で、住所録のデータベースを構築した。登録件数は880である。

データベースの主な分類構成は、次のとおりである。

- ①研修会参加者：62名
- ②研修会講師：52名
- ③連携団体：県央福祉会事業所 98ヶ所
- ④神奈川県知的障害者施設連合会：369ヶ所
- ⑤近隣の行政機関（市役所障がい福祉課）：6ヶ所
大和市、相模原市、海老名市、綾瀬市、藤沢市、座間市
- ⑥小学校、中学校、高校：56校
大和市立小学校(20)、大和市立中学校（10）、県立特別支援学校(26)
- ⑦保育園、デイサービス：95ヶ所
大和市内認可保育園（54）、大和市・近隣のデイサービス(41)
- ⑧県内認定NPO法人：29ヶ所
- ⑨社会福祉法人（42）、WAM事業アドバイザー（5）：47ヶ所
- ⑩かけはし関係者：40名
個人正会員、個人賛助会員、かけはし理事、相談役、法人支援員・相談員等
- ⑪自閉症協会関係団体：13ヶ所

2020年度の講演会・研修会・連携シンポジウムでは、上記のデータベースを活用して、広報チラシ、R・Flagプロジェクト通信をダイレクトメールで郵送した。厳しいコロナ禍環境下での参加型の講演会・研修会・連携シンポジウムを開催した。2020年度の研修会参加者数は204名である。参加者数は2019年度に比べて46%（64名）増加した。データベースの構築は、参加者募集の上で効果的であると判断される。

また、ホームページ、広報チラシで、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を積極的に広報した。参加者に安心感を与えたことが参加者増につながったと考えられるので、積極広報戦略の展開は適切であると判断される。

第8章 2020年度WAM助成事業の総括

8.1 2020年度WAM助成事業の実施概要

2020年度は、採択課題『知的・発達障害者が地域で安心して、生き生きした人生を送る後見事業』を実施した。WAM助成事業は、図1-1に示す「運営委員会・WAM委員会の合同委員会」の下で、講演会、研修会、地域連携シンポジウムの企画審議、月例会計報告を行い、WAM助成事業の透明性に努めた。

研修会を会場参加型で実施するために、新型コロナウイルス感染予防の衛生対策として、研修会の会場は外風の流れが確保できる「自然換気型会場」を選択した。また、会場では、テーブルの消毒、参加者の検温、常時換気、参加人数の制限（身体的距離の確保）を行い、3密を避けた衛生環境を整備した。

8.2 2020年度WAM助成事業の成果

- ①WAM助成事業では、図6-1の「地域後見入れ子構造モデル」を独自に考案し、障害を地域で支える後見事業を多角的に実践した。法人設立後6年間の法人後見受任件数（知的障害者・発達障害者・精神障害者）は27件である。WAM助成事業により当法人の後見活動が評価され、受任件数は2021年3月末に31件に達する見込みである。
- ②人材育成の成年後見研修会の講師は、障害者の多様な行動特性を参加者に教授し、高い専門性を持つ障害者支援員の育成に貢献した。
- ③トラブル・シューター研修会により、多様な障害特性を深く理解する地域住民を育成した。
- ④2020年度の地域連携シンポジウムにより、地域の障害者を広域連携で支える潜在的ニーズを確認できた。
- ⑤新型コロナウイルス感染拡大の環境下で、講演会1回、研修会3回（2日型で6日間）、地域連携シンポジウム2回を、会場参加型で実施した。
- ⑥広報誌「R・Flagプロジェクト通信」を8回発行し、29,000部を障害者家族、福祉施設、行政機関等に幅広く配布し、障害者の人権擁護の啓発に努めた。
- ⑦データベースを作成し、団体・個人の住所録情報を880件登録し、研修会参加者募集に活用した。
- ⑧横浜市武道連盟の加盟8団体の協力を得て2020年12月にユース世代（12歳～22歳）を対象に「障害者サポート」アンケート調査を広域的に実施した。ユース世代に「障害者の多様な障害特性」を理解させる重要性を確認できた。

8.3 2020年度の取組の中から見えてきた課題

- ①地域で障害者が生き生きした暮らしを送るためには、地域成年後見推進事業と並行して、基盤となる地域福祉の向上が重要である。

- ②障害者サポート調査の分析から、障害について深く知ることができたら、障害者をサポートしたいユース世代が多数存在する実態が分かった。
- ③将来を支えるユース世代を「様々な障害特性を理解する」サポーターとして養成することは、社会基盤の地域福祉を向上させ、共生型社会を創る上での喫緊の課題である。
- ④障害者は同世代の中での居場所を求めている。テレワークの促進に伴い、これまで通勤に時間を費やしていた壮年中年世代（25歳から65歳）が、地域で障害者と接する機会が増えると予想される。今を支える壮年中年世代を、様々な障害特性を理解するサポーターとして養成することは、障害者に「豊かな幸せ」の時間を享受させる上でも重要な社会的課題である。
- ⑤障害者個々に最もふさわしい支援を提供するためには、社会福祉法人、社会福祉協議会、NPO法人等の様々な知見を融合して挑む『都道府県域を超えた広域連携ネットワーク』の創設が必要である。

8.4 見えてきた課題を継続的に取り組むための条件

条件は

- ①ユース世代を障害者サポーターとして育成するためには、県教育委員会・市教育委員会との支援協力関係の創設
- ②ユース世代のニーズに応じた柔軟な研修会シラバス編成の工夫
- ③壮年中年世代（25歳から65歳）が地元でサポーターとして積極的に参加できる仕組み作りの構築
- ④研修会の企画・実施及びSNS広報の情報拡散の企画戦略に係わるスタッフの確保であることが判った。

8.5 結語

図 8-1 に「かけはし八ヶ岳型 NPO 法人モデル」を示す。当法人は、様々な峰からなる八ヶ岳連峰のように、地域後見事業、権利擁護事業、地域福祉事業など多角的に実施できる組織体制の変容が、社会的に要請されている。

当法人の運営委員会(役員会)は、前項「8.3」の活動条件を達成するために、

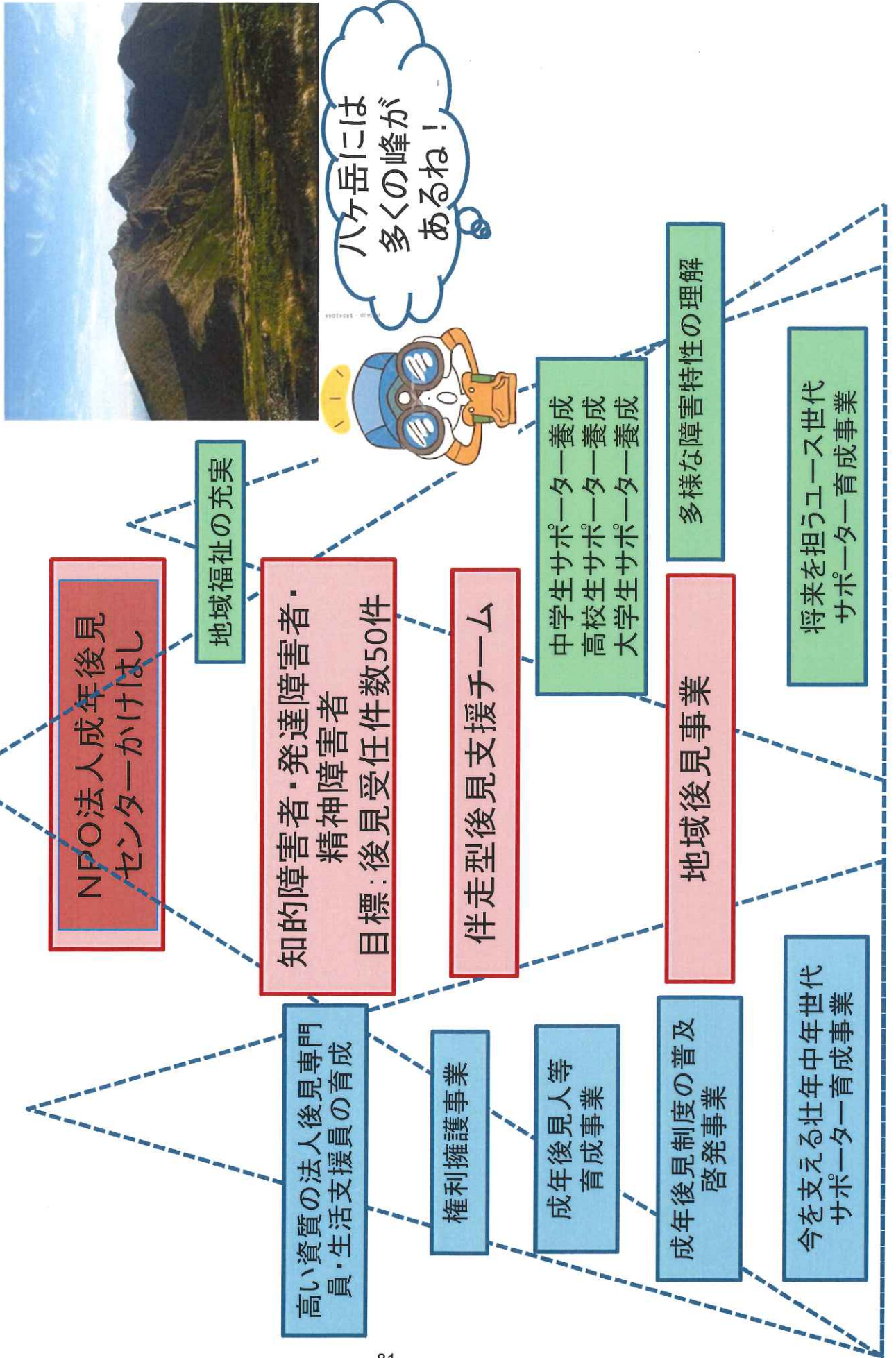
- ①障害者の多様な障害特性を深く理解したユース世代を育成する為に、将来を担うユース世代サポーター育成事業企画の実施
- ②上記と同様に、障害の多様な障害特性を深く理解した壮年中年世代を育成する為に、今を支える壮年中年世代サポーター育成事業企画の実施
- ③世代間交流事業企画の実施
- ④広域的地域連携事業企画の実施

を企画審議することが重要である。

今後、理事相互で「課題の情報の共有化」に努めることにより、種々の課題に積極的に対応していきたいと考える。

WAM助成事業 担当理事 大場 正昭

図8-1 かけはし八ヶ岳型NPO法人モデル



第9章 2018年度・2019年度・2020年度の 3年間継続したWAM助成事業の全体総括

9.1 WAM助成事業の採択課題と総事業費

図9-1～図9-3に2018年度、2019年度、及び2020年度のWAM助成事業計画を示す。

2018年度のWAM助成事業

- ・顔が見える第三者後見事業
- ・人材育成の研修会事業
- ・成年後見制度の普及啓発事業
- ・広報事業

2019年度のWAM助成事業

- ・人材育成の研修会事業（個人後見）・人材育成の研修会事業（法人後見）
- ・成年後見制度の普及啓発事業
- ・地元大和市の地域連携事業
- ・WAM連携支援専門家チームとの継続的強化事業
- ・広報事業

2020年度のWAM助成事業

- ・人材育成の成年後見研修会事業
- ・成年後見制度の普及啓発事業
- ・地域連携強化事業
- ・トラブル・シューター研修会事業
- ・WAM連携支援専門家チームとの継続的強化事業
- ・広報事業

で編成される。

表9-1に3年間のWAM助成事業の採択課題と事業費を示す。WAM助成申請書に記載した「WAM助成事業計画」は、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の国庫補助金（WAM助成費）だけで賄えなかったため、自己資金として寄付金を集めることで対応した。自己資金を含めた「3年間の事業費総額」は14,995千円である。

表 9-1 WAM 助成事業の採択課題と事業費

年度	採択課題	WAM 助成事業の総事業費		
		WAM 助成費	WAM 事業 限定寄付金 (自己資金)	計
2018	知的障害者・発達障害者の地域後見推進事業	2,497 千円	2,410 千円	4,907 千円
2019	知的障害・発達障害者が地域で生き生きした 人生を送る地域後見事業	3,298 千円	1,400 千円	4,698 千円
2020	知的・発達障害者が地域で安心して 生き生きした人生を送る後見事業	3,990 千円	1,400 千円	5,390 千円
合計		9,785 千円	5,210 千円	14,995 千円

図9-1 2018年度WAM助成事業計画 採択課題：知的障害者・発達障害者の地域後見推進事業

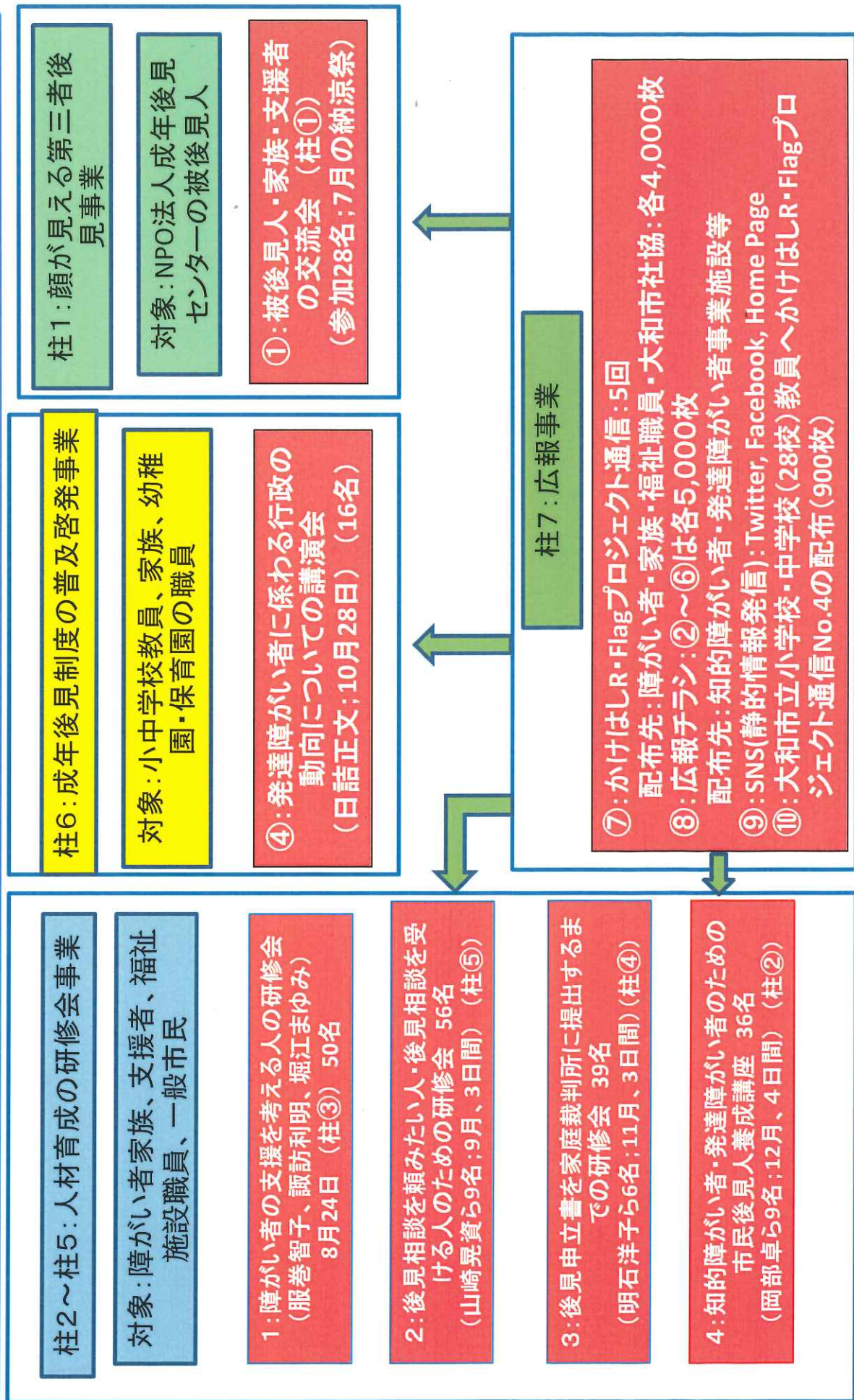


図9-2 2019年度WAM助成事業計画

採択課題：知的障害・発達障害者が地域で生き生きとした人生を送る地域後見事業

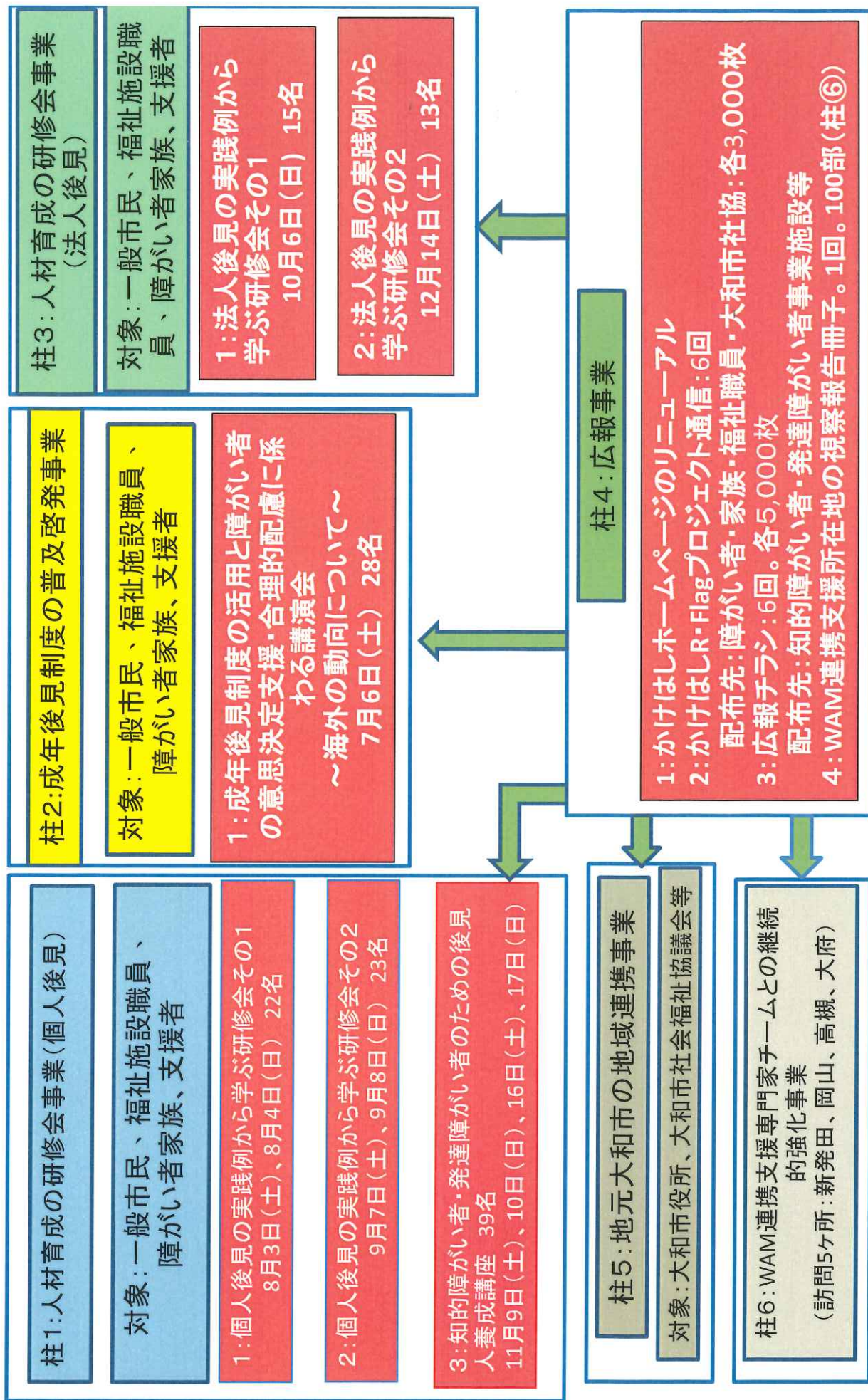
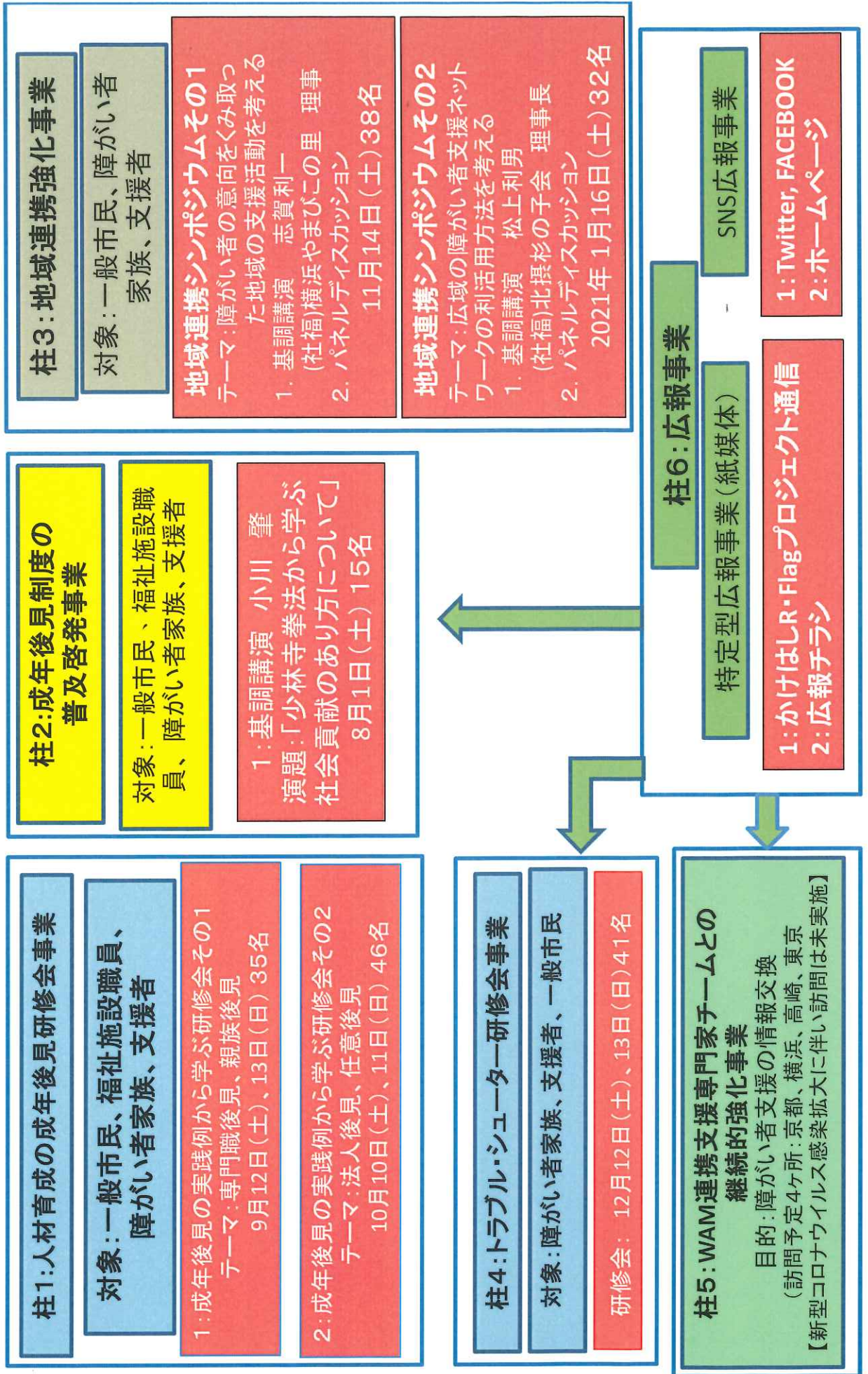


図9-3 2020年度WAM助成事業計画

採択課題：知的・発達障害者が地域で安心して、生き生きとした人生を送る後見推進事業



9.2 WAM 助成事業で実施した研修会・講演会・地域連携シンポジウム

表 9-2 に 2018 年度・2019 年度・2020 年度の「事業名称・参加人数・冊子制作」を示す。
 研修会・講演会・地域連携シンポジウム、及び「被後見人・後見人等の親睦納涼祭」の延べ参加者数は
 569 名である。制作した研修会冊子は 17 冊である。研修会冊子は、独立行政法人福祉医療機構、福祉団体等に
 配布した。

表 9-2 2018 年度・2019 年度・2020 年度実施の事業名称・参加人数・冊子制作

年度	日にち	事業名称	参加人数	冊子制作
2018	7 月 21 日	被後見人、後見人等の親睦納涼祭 会場：福祉創造スクウェア・すぷら 食堂・多目的作業室（体育館）	28	
	8 月 24 日	障がい者の支援を考える人のための研修会 （トークショー）会場：座間市立ハーモニホール座間	50	○
	3 日型 9 月 22 日 23 日、29 日	後見相談を頼みたい人及び後見相談を受ける人のための 研修会 会場：県央福祉会 法人会議室	56	○
	10 月 28 日	発達障がい者に係わる行政の動向について 会場：県央福祉会 法人会議室	16	○
	3 日型 11 月 17 日 18 日、24 日	後見申立書を家庭裁判所に提出するまでの研修会 会場：県央福祉会 法人会議室	39	○
	3 日型 12 月 9 日 15 日、16 日	知的障がい者・発達障がい者のための 市民後見人養成講座：会場：県央福祉会 法人会議室	36	○
	2019	7 月 6 日	成年後見制度の活用と障がい者の意思決定支援・ 合理的配慮に係わる講演会 ～海外の動向について～ 会場：県央福祉会 法人会議室	28
8 月 3 日・4 日		個人後見の実践例から学ぶ研修会その 1 会場：県央福祉会 法人会議室	22	○
2 日型 9 月 7 日・8 日		個人後見の実践例から学ぶ研修会その 2 会場：県央福祉会 法人会議室	23	○

	10月6日	法人後見の実践例から学ぶ研修会その1 会場：県央福祉会 法人会議室	15	○
	4日型 11月9日 10日、16日 17日	知的障がい者・発達障がい者のための後見人育成講座 会場：県央福祉会 法人会議室	39	○
	12月14日	法人後見の実践例から学ぶ研修会その2 会場：県央福祉会 法人会議室	13	○
2020	8月1日	講演会「少林寺拳法から学ぶ自らの生き方について」 会場：県央福祉会 法人会議室	15	○
	2日型 9月12日 13日	成年後見の実践例から学ぶ研修会 その1 会場：県央福祉会 法人会議室	35	○
	2日型 10月10日 11日	成年後見の実践例から学ぶ研修会 その2 会場：県央福祉会 法人会議室	43	○
	11月14日	地域連携シンポジウム その1 会場：県央福祉会 法人会議室	38	○
	2日型 12月12日 13日	トラブル・シューター 研修会 会場：県央福祉会 法人会議室	41	○
	1月16日	地域連携シンポジウム その2 会場：県央福祉会 法人会議室	32	○
合計			569	17

図 9-4 に 2018 年度・2019 年度・2020 年度に制作した冊子表紙を示す

図 9-4 2018 年度・2019 年度・2020 年度の研修会冊子の表紙

<p>後見相談を頼みたい人 及び後見相談を受ける人 のための研修会</p>  <p>「美味しゅうだやん」 グレイボンビー 村上幸美さん</p> <p>2018年9月22(土)・23(日)・29(金) 10:30~16:30</p> <p>中央福祉 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし</p>	<p>発達障がい者に 係る行政の 動向について</p>  <p>「ハロウィン」 福祉創造スクエア933 古田千晶さん</p> <p>2018年10月20日(日)13:30~15:30</p> <p>中央福祉 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし 後援 大和市教育委員会・大和市社会福祉協議会</p>	<p>後見申立書を 家庭裁判所に 提出するまでの研修会</p>  <p>「たき火でやきいも! ルンドルン」 ふきのとう舎 伊藤優衣さん</p> <p>2018年11月17日(土) 18日(日) 24日(土) 10:30~16:30</p> <p>中央福祉 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし</p>
<p>2018 年 9 月</p>	<p>2018 年 10 月</p>	<p>2018 年 11 月</p>
<p>知的障がい者・発達障がい者 のための市民後見人 養成講座</p>  <p>「クリスマス・サンタ」 ワークショップ園の花 WR1グループ</p> <p>2018年12月9日(日)・15日(土)16日(日) 10:30~16:30</p> <p>中央福祉 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし 後援 大和市社会福祉協議会</p>	<p>2019年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業</p> <p>成年後見制度の活用と、障がい者の 意思決定支援・合理的配慮 に係わる講演会</p> <p>～海外の動向について～</p>  <p>「おひめとひこぼし」 福祉創造スクエア933 利明香一尚</p> <p>2019年7月6日(土)13:00~15:30</p> <p>中央福祉 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし 後援 大和市社会福祉協議会</p>	<p>2019年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業</p> <p>個人後見の実践例 から学ぶ研修会 その1</p>  <p>「喜ばみ」 ふきのとう舎 こだまグループのみなさん</p> <p>2019年8月3日(土)・4日(日) 10:30~16:30</p> <p>中央福祉 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし 後援 大和市社会福祉協議会</p>
<p>2018 年 12 月</p>	<p>2019 年 7 月</p>	<p>2019 年 8 月</p>
<p>2019年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業</p> <p>個人後見の実践例 から学ぶ研修会 その2</p>  <p>「おいしい秋 たつた!」 パステルアート 千葉文代さん</p> <p>2019年9月7日(土)・8日(日) 10:30~16:30</p> <p>中央福祉 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし 後援 大和市社会福祉協議会</p>	<p>2019年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業</p> <p>法人後見の実践例 から学ぶ研修会 その1</p>  <p>「のぼったよ! たかおさん」 福祉創造スクエア933 香取まゆみさん</p> <p>2019年10月6日(日)10:30~16:30</p> <p>中央福祉 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし 後援 大和市社会福祉協議会</p>	<p>2019年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業</p> <p>知的障がい者・発達障がい者 のための 後見人養成講座</p>  <p>「ひなまつり」「夕日とやしの木」 「鶴と亀」 渡辺 香代子さん 守屋 亮太さん 飯田 勇さん (福祉創造スクエア・すぶら)</p> <p>2019年11月9日(土)・10日(日) 11月16日(土)・17日(日) 10:30~16:30</p> <p>中央福祉 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし 後援 大和市社会福祉協議会</p>
<p>2019 年 9 月</p>	<p>2019 年 10 月</p>	<p>2019 年 11 月</p>

<p>2019年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業</p> <p>法人後見の実践例から学ぶ研修会 その2</p>  <p>「クリスマスの雪だるま」 三浦創生会 岡三作 栗原のみなさん</p> <p>2019年12月14日(土)10:30-16:30</p> <p>豊央福祉会 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし</p> 	<p>令和2年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業</p> <p>記念基調講演会</p> <p>少林寺拳法から学ぶ 自らの生き方について</p>  <p>「ちぎり絵(花火)」</p> <p>（豊央福祉会グループ一宮） 奥本 大智孝さん 上野 麗代さん 大澤 実美江さん 中山 裕子さん 佐藤 麗美さん 和田 清穂さん 前田 啓文さん 小崎 優子さん</p> <p>令和2年8月1日(土)13:00-14:30</p> <p>豊央福祉会 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし</p> 	<p>令和2年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業</p> <p>成年後見の実践例から学ぶ研修会 その1</p>  <p>「私のあいのけしき」 （豊央福祉会ふるーる） 荒井 九美さん</p> <p>令和2年9月12日(土)・13日(日) 10:30-14:45</p> <p>豊央福祉会 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし</p> 
<p>2019年12月</p>	<p>2020年8月</p>	<p>2020年9月</p>
<p>令和2年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業</p> <p>成年後見の実践例から学ぶ研修会 その2</p>  <p>「紅葉、イチゴウ」「ハロウィン」「栗、柿」 （豊央福祉会 本原わかまつ） 藤川 一哉さん</p> <p>令和2年10月10日(土)・11日(日) 10:30-14:45</p> <p>豊央福祉会 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし</p> 	<p>令和2年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業</p> <p>地域連携シンポジウム その1</p> <p>障がい者の意向をくみ取った 地域の支援活動を考える</p>  <p>（豊央福祉会 すまら）「我が一匹、夜の寝巻」 空巻 聡美さん 「水のなまこも」 栗 美津美さん 「収穫祭」 吉田 千鳥さん</p> <p>令和2年11月14日(土)11:00-15:30</p> <p>豊央福祉会 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし</p> 	<p>令和2年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業</p> <p>トラブル・シューター 研修会</p>  <p>「メリークリスマス」 （豊央福祉会パスタカフェワークセンター）グループのみなさん</p> <p>令和2年12月12日(土)・13日(日) 10:30-14:45</p> <p>豊央福祉会 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし</p> 
<p>2020年10月</p>	<p>2020年11月</p>	<p>2020年12月</p>
<p>令和2年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業</p> <p>地域連携シンポジウム その2</p> <p>広域の障がい者支援 ネットワークの 利活用方法を考える</p>  <p>「一餅、二門松、三羽子板」 （豊央福祉会 ふきのとう再生会） star11グループのみなさん</p> <p>令和3年1月16日(土)13:00-16:45</p> <p>豊央福祉会 法人会議室</p> <p>主催 NPO法人成年後見センター かけはし</p> 		
<p>2021年1月</p>		

9.3 WAM 連携支援専門家チームとの継続的強化事業

WAM 助成事業の研修会講師との連携を継続的に維持する目的で、2019 年度は 5 件の事業所を訪問し、交流を含めた。2020 年度は、緊急事態宣言の社会環境の為、福祉施設の現地訪問は実施できなかった。

表 9-3 2019 年度の現地視察事業所の一覧表

	日にち	訪問先	所在地	訪問者
1	2019 年 7 月 2 日(火) 3 日(水)	社会福祉法人のぞみの家福祉会 スマイルサポートセンター	新潟県新発田市	法人理事 大場正昭 法人後見支援員 佐藤マサ子
2	9 月 3 日(火)	総社市立 総社はばたき園	岡山県総社市	法人理事 大場正昭 県央福祉会 生活支援員 江口洋史
3	10 月 1 日(火)	社会福祉法人 北摂杉の子会	大阪府高槻市	法人理事 大場正昭 県央福祉会 生活支援員 乳井俊之
4	10 月 2 日(水)	特定非営利活動法人 権利擁護たかつき	大阪府高槻市	法人理事 大場正昭、川田雪野
5	10 月 29 日(火)	社会福祉法人 大府福祉会 たくと大府	愛知県大府市	法人理事 大場正昭 県央福祉会 生活支援員 清原 訓

上記のなかで、「社会福祉法人 北摂杉の子会」と「社会福祉法人 大府福祉会たくと大府」の訪問報告書を次に示す。

【(3) 社会福祉法人 北摂杉の子会】

今回の訪問は、辻川法律事務所 辻川圭乃弁護士(2019 年 8 月の研修会講師)の紹介で実施されました。

1. 所在地 大阪府高槻市城北町 1 丁目 6-8 奥野ビル 4 階
2. 視察日時
2019 年 10 月 1 日(火) 11:30-18:00
3. 訪問者
かけはし理事 大場正昭、
社会福祉法人 県央福祉会 ピッコリーナ 生活支援員 乳井俊之
4. 視察先の面談者
 - ・社会福祉法人 北摂杉の子会 理事長 松上利男
 - ・地域生活支援部 レジデンスなさはら 2 丁目 副部長 原田智弘

- ・高槻地域総合支援センター ふれいす 施設長 下 裕幸
- ・ジョブジョイントおおさか 山田 優

5. 法人理念

『地域で生きる』

6. 見学施設（案内者：北摂杉の子会 理事長 松上利男）

- ①北摂杉の子会本部
- ②高槻地域生活総合支援センターふれいす Be
- ③Café Be （レストラン）
- ④グループホーム「レジデンスなさはら2丁目」
- ⑤就労継続型Bさん方の職場「LaLa-chocolat TAKATSUKI ララショコラ」
- ⑥就労移行支援施設の『ジョブジョイントおおさか たかつきランチ』

7. 意見交換会「成年後見制度の活用について」

- ・配布資料：
 - ・NPO 法人成年後見センターかけはしの概要説明書
 - ・海外の成年後見制度の比較表
- ・面談者：理事長 松上利男、統括理事 平野貴久
 レジデンスなさはら2丁目 副部長 原田智弘
- ・当法人：理事 大場正昭

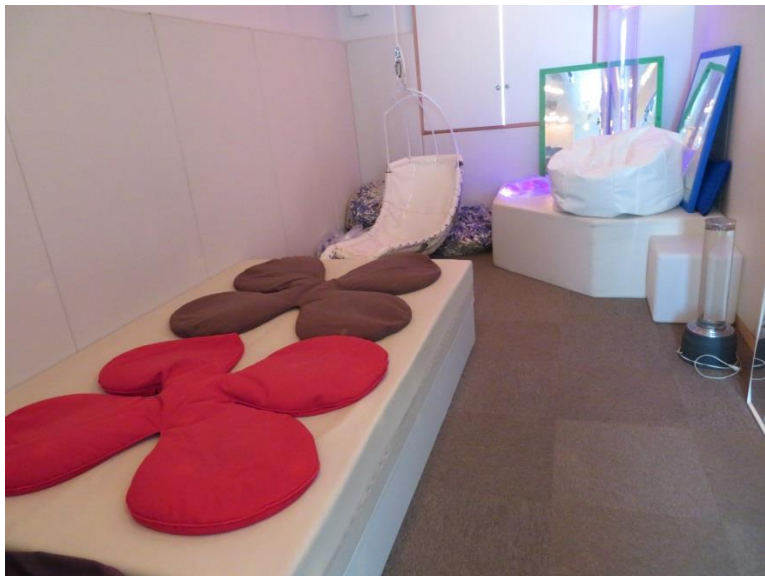
□見学施設の写真

<p>高槻地域生活支援センターふれいす Be の建物平面図</p>	<p>可視構造化された表示板 「アクティビティルーム1」</p>



高槻地域生活支援センターふれいす Be の建物外観

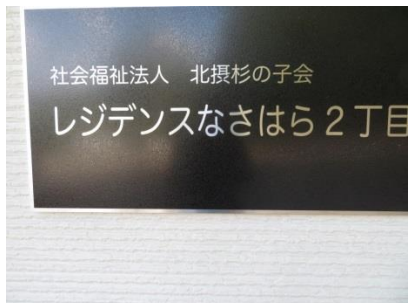
とても素晴らし建築作品なので、訪問時、他県の建築学科学生が施設見学していました



発達障がい者が不安定になったときの休息室（リラクゼーション室）で、監督者なしで、発達障がい者だけで過ごします。ベッドはエアマット製、遊戯はオリジナルで、スウェーデンへ特注したものです。音楽は、聴覚過敏症を考慮した本格的な音響装置で、安らぎの曲が流れます



クリーニング作業室で、発達障がい者がホテルのリネンを洗浄していました
委託事業の達成目的のために、ランドリー機器は全て業務用機器でした



グループホーム
「レジデンスなさはら2丁目」の表札



利用者さんの個室



就労継続型Bさん方の職場「LaLa-chocolat TAKATSUKI ララショコラ」のお店



就労移行支援施設の『ジョブジョイントおおさか たかつきランチ』就労移行支援室

【(5) 社会福祉法人 大府福祉会たくと大府】

1. 所在地

愛知県大府市森岡町 8-172-2

2. 視察日時

2019年10月29日(火) 13:30 ~17:30

3. 訪問者

- ・かけはし理事 大場正昭
- ・社会福祉法人 県央福祉会 生活介護事業所「ふるーる」 生活支援員 清原 訓

4. 視察先の面談者

- ・社会福祉法人 大府福祉会 たくと大府 施設長 林 大輔

5. 法人理念：－ 聴き、寄り添い、動く －

私たちは、利用者・家族・地域などの「声」に耳を傾け、誰もが安心して暮らして いけるように、様々な福祉サービスを行います。そして、一人ひとりの想いに寄り添い、望む暮らしや生き方の実現に向けて必要な支援を行います。

6. 見学施設

- ①たくと大府（自閉症に特化した施設）
- ②大府市発達支援センターみのり（併設）

	
<p>たくと大府の案内板</p>	<p>たくと大府の建物外観 室内設計は自閉症の行動特性に特化した「障がい者の動線と部屋の配置構成」がなされていた</p>



食堂と当日のランチメニュー

食堂の色彩は落ち着いた緑色で、自閉症児の心の不安感を緩和される配慮がなされていた



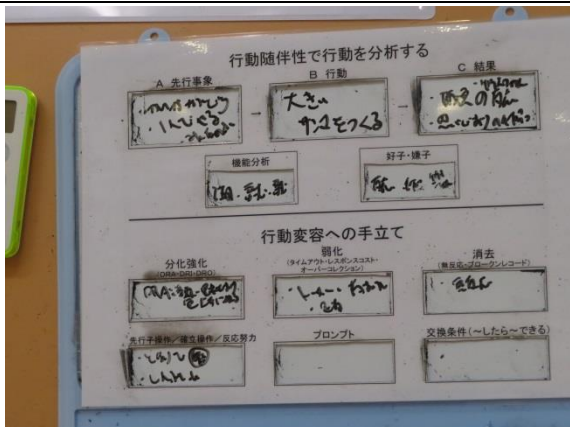
廊下の壁面に飾られた「自閉症児者の作品」



閉ざされた空間が安心感を与えるよう工夫された
自閉症児作業コーナー



落ち着いて作業ができる自閉症児に用意された
作業コーナー



生活支援員用の掲示板



作業グッズ棚



作業グッズその1
トヨタ自動車の車部品で、委託事業です



作業グッズその2

9.4 広報事業

9.4.1 会報誌「R・Flag プロジェクト通信」

表9-4に会報誌「R・Flag プロジェクト通信」の発行月・記事内容を示す。会報誌「R・Flag プロジェクト通信」の印刷枚数は、2018年度24,000枚、2019年度18,000枚、2020年度は29,000枚で、3年間の配布枚数は71,000部である。図9-5に3年間に発行したR・Flag プロジェクト通信の累積発行枚数を示す

表9-4 会報誌「R・Flag プロジェクト通信」の発行月・記事内容

年度	発行月	No	R・Flag プロジェクト通信	配布枚数	
				印刷部数	計
2018	7月	1	被後見人、後見人等の親睦納涼祭	4000	24,000
	8月	2	障がい者の支援を考える人のための研修会	4000	
	9月	3	後見相談を頼みたい人及び後見相談を受ける人のための研修会	4000	
	10月	4	発達障がい者に係わる行政の動向について	4000	
	12月	5	後見申立書を家庭裁判所に提出するまでの研修会	4000	
知的障がい者・発達障がい者のための市民後見人養成講座			4000		
2019	7月	6	成年後見制度の活用と障がい者の意思決定支援・合理的配慮に係わる講演会 ～海外の動向について～	3000	18,000
	8月	7	個人後見の実践例から学ぶ研修会その1	3000	
	9月	8	個人後見の実践例から学ぶ研修会その2	3000	
	10月	9	法人後見の実践例から学ぶ研修会その1	3000	
	11月	10	知的障がい者・発達障がい者のための後見人育成講座	3000	
	12月	11	法人後見の実践例から学ぶ研修会その2	3000	
2020	5月	12	特集号「第1回かけはしWAM助成事業」	4500	29,000
	6月	13	特集号「第2回かけはしWAM助成事業」	4500	
	8月	14	講演会「少林寺拳法から学ぶ自らの生き方について」	4500	
	9月	15	成年後見の実践例から学ぶ研修会 その1	4500	
	10月	16	成年後見の実践例から学ぶ研修会 その2	4500	
	11月	17	地域連携シンポジウム その1	4500	
	12月	18	トラブル・シューター 研修会	1000	
	1月	19	地域連携シンポジウム その2	1000	
合計				71,000	71,000

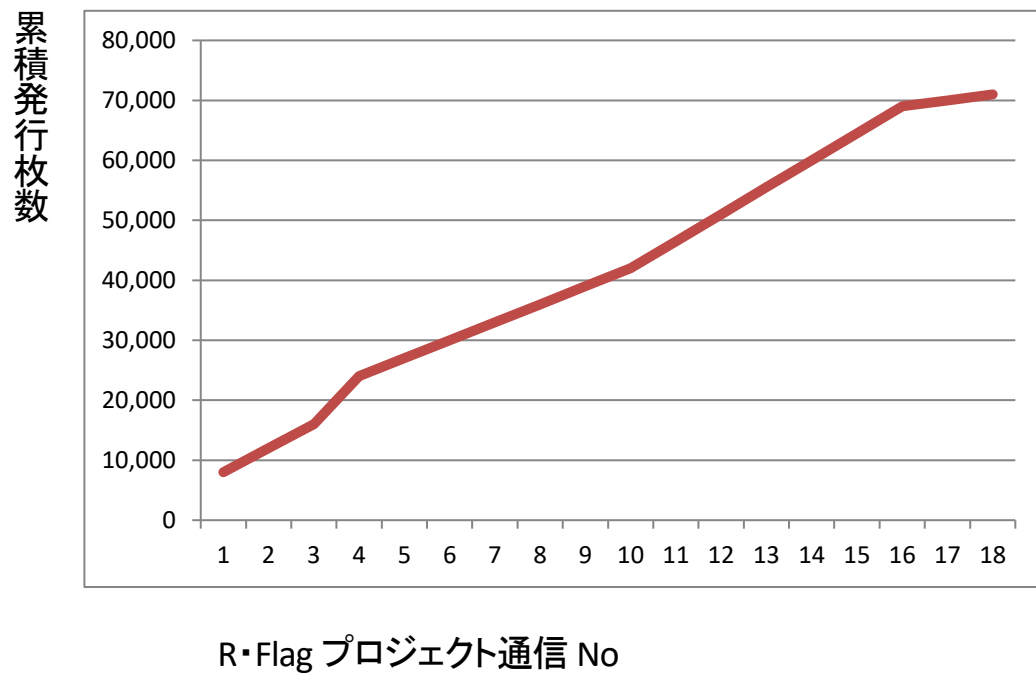


図 9-5 3年間に発行した R・Flag プロジェクト通信の累積発行枚数

9.4.2 データベース

2018年4月～2020年1月末までに入手できた団体・個人情報で、住所録のデータベースを構築した。登録件数は880である。

データベースの主な分類構成は、次のとおりである。

- ①研修会参加者：62名
- ②研修会講師：52名
- ③連携団体：県央福祉会事業所 98ヶ所
- ④神奈川県知的障害者施設連合会：369ヶ所
- ⑤近隣の行政機関（市役所障がい福祉課）：6ヶ所
大和市、相模原市、海老名市、綾瀬市、藤沢市、座間市
- ⑥小学校、中学校、高校：56校
大和市立小学校(20)、大和市立中学校(10)、県立特別支援学校(26)、
- ⑦保育園、デイサービス：95ヶ所
大和市内認可保育園(54)、大和市・近隣のデイサービス(41)
- ⑧県内認定NPO法人：29ヶ所
- ⑨社会福祉法人(42)、WAM事業アドバイザー(5)：47ヶ所
- ⑩かけはし関係者：40名
個人正会員、個人賛助会員、かけはし理事、相談役、法人支援員・相談員等
- ⑪自閉症協会関係団体：13ヶ所

厳しいコロナ禍環境下での参加型の講演会・研修会・連携シンポジウムを開催した。講演会・研修会・連携シンポジウムの広報は、上記のデータベースを活用して、広報チラシ、R・Flagプロジェクト通信をダイレクトメールで郵送した。2020年度の研修会参加者数は204名である。参加者数は2019年度に比べて46%（64名）増加した。データベースの構築は、参加者募集の上でとても効果的であった。

9.5 結語

2018年度・2019年度・2020年度のWAN助成事業で得られた成果は、次のとおりである。

①法人後見受任件数の増加

WAM助成事業では、図6-1の「地域後見入れ子構造モデル」を独自に考案し、障害者を地域で支える後見事業を多角的に実践した。法人設立後6年間の法人後見受任件数（知的障害者・発達障害者・精神障害者）は27件である。WAM助成事業により当法人の後見活動が評価され、受任件数は2021年3月末に31件に達する見込みである。

②障害特性を深く理解する地域住民の育成

3年間に延べ15回の研修会・講演会を開催した。研修会シラバスは基礎・特性・制度で構成し、多様な講師陣の講義により、障害特性を深く理解する地域住民を育成した。参加者アンケート調査で、障害特性を深く理解する地域住民が育成されたことを確認した。

③高い専門性を持つ障害者支援員の育成

前項②と同様に、多角的な研修会シラバスにより、高い資質の障害者支援員候補者を育成した。

④高い質の研修会冊子の制作

制作した研修会・講演会冊子は15冊である。生活支援員養成の為に教材として、研修会・講演会冊子の活用が期待される。

⑤障害者のための地域連携の進展

2020年度は、2回の地域連携シンポジウムを開催し、パネルディスカッションにより、地域の障害者を広域連携で支える必要性をパネリスト間で共有できた。地域連携の進展が期待される。

⑥会報誌「R・Flag プロジェクト通信」の発行実績

講演会・研修会・地域連携シンポジウムごとに講演内容を記事形式で、障害者家族、知的障害者施設連合会、連携団体、行政機関に幅広く配布した。障害者の権利擁護の啓発運動に貢献できた。

配布枚数は、

- ・2018年度24,000枚、
- ・2019年度18,000枚、
- ・2020年度29,000枚

で、3年間の配布枚数は71,000部に達した。

⑦データベースの構築

団体・個人情報の住所録データベースを構築した。登録件数は880である。

データベースの主な分類構成は、研修会参加者・研修会講師・連携団体・神奈川県知的障害者施設連合会・近隣の行政機関（市役所障がい福祉課）・「小学校、中学校・県立特別支援学校」・県内認定NPO法人・自閉症協会関係団体等である。

今後は、理事相互で「課題の情報の共有化」に努めることにより、種々の課題に積極的に対応していきたいと考える。

WAM助成事業 担当理事 大場 正昭

